

熊本大学埋蔵文化財調査センター  
における組織評価  
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日  
38 埋蔵文化財調査センター



## 目次

I	熊本大学埋蔵文化財調査センターの現況及び特徴	1
II	研究の領域に関する自己評価書	2
	1. 研究の目的と特徴	3
	2. 優れた点及び改善を要する点	4
	3. 観点ごとの分析及び判定	4
	4. 質の向上度の分析及び判定	9
III	社会貢献の領域に関する自己評価書	11
	1. 社会貢献の目的と特徴	12
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	13
	3. 観点ごとの分析及び判定	13
	4. 質の向上度の分析及び判定	25
IV	国際化の領域に関する自己評価書	26
	1. 国際化の目的と特徴	27
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	28
	3. 観点ごとの分析及び判定	28
	4. 質の向上度の分析及び判定	32
V	教育研究支援に関する自己評価書	33
	1. 教育研究支援（その他の領域）の目的と特徴	34
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	35
	3. 観点ごとの分析及び判定	35
	4. 質の向上度の分析及び判定	37
VI	男女共同参画に関する自己評価書	38
	1. 男女共同参画（その他の領域）の目的と特徴	39
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	39
	3. 観点ごとの分析及び判定	40
	4. 質の向上度の分析及び判定	43
VII	管理運営に関する自己評価書	44
	1. 管理運営の目的と特徴	45
	2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	45
	3. 観点ごとの分析及び判定	45
	4. 質の向上度の分析及び判定	60

## I 熊本大学埋蔵文化財調査センターの現況及び特徴

### 1 現況

- (1) 学部等名：熊本大学埋蔵文化財調査センター
- (2) 学生数及び教員数（平成 26 年 9 月 30 日現在）：  
兼務教員数（センター長）：1 人、専任教員数：3 人

### 2 特徴

熊本大学の開発に伴い、構内遺跡の調査に関する業務を行う組織である。

業務内容は以下の 4 項目である（熊本大学埋蔵文化財調査センター規則による）。

- (1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理・保管および保存に関すること
- (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること
- (4) その他センターの目的を達成するために必要な事項

独立した 2 階建ての建物が黒髪南地区にあり、事務室・調査員室の他、展示室・作業室・書庫を備える。

### 3 組織の目的

熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録・保存および活用し、もって本学の教育・研究に寄与することを目的とする（熊本大学埋蔵文化財調査センター規則による）。

熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「本センター」と記す。）は、前身の埋蔵文化財調査室をもとに平成 23 年 10 月 1 日に設立された調査機関であり、二つの組織は継続性が強い。今回の自己評価は平成 22 年度以降の活動を対象にしているため、平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日までについては埋蔵文化財調査室の活動を対象として記載する。

## Ⅱ 研究の領域に関する自己評価書

## 1. 研究の目的と特徴

本センター業務にかかわる以下の研究を推進することを基本方針とする。

- ① 上質な埋蔵文化財調査の実施に関する研究
- ② 効果的な埋蔵文化財の整理・保管、報告書の作成に関する研究
- ③ 効果的な展示・普及活動に資する研究
- ④ ①～③に資する考古学研究

[想定する関係者とその期待]

- ・ 想定する関係者  
熊本大学関係者、地方公共団体の文化財部門、大学の埋蔵文化財関係機関、大学の考古学研究室、国内の博物館・歴史民俗資料館、文化庁記念物課、歴史学研究者、歴史に興味をもつ一般市民
- ・ その期待
  - ① 発掘調査成果の公表により、大学の歴史を理解する。
  - ② 発掘調査報告書により構内遺跡の成果を理解し、地域史復元を進める。
  - ③ 埋蔵文化財調査センターの展示等により、構内遺跡の成果を理解し、地域史の理解を深める。
  - ④ 発掘調査成果の公表により、国内の埋蔵文化財行政の整備を進める。
  - ⑤ 歴史学研究、考古学研に寄与する。

## 2. 優れた点及び改善を要する点

## 【優れた点】

- ・ 各教員の研究活動が期待される水準を上回っている点。
- ・ 報告書ならびに年報が計画的に刊行されている点。

## 【改善を要する点】

- ・ センターの事業量が年ごとに変動するため、研究活動の計画的な継続がしばしば困難になる。ことに事業量の多い年には発掘調査を優先せざるを得ないため、報告書作成作業が積み残される傾向が強い。これが結果的に個人の研究を圧迫し、業績に影響する傾向がある点。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

## 分析項目 I 研究活動の状況

## 観点 研究活動の状況

(観点到に係る状況)

・平成 22 年 4 月から 26 年 3 月までの研究活動を数値で示すと以下の通りである。(資料番号 B-1-1～B-1-4)

- 論文・著作数：44
- 科学研究費採択件数：8
- 研究発表数：12

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由) 対象期間における本センターの専任教員は平均 2 人であり(平成 22 年度 2 人、23 年度 1 人、24 年度 2 人、25 年度 10 月以降 3 人)、その実績を 1 人あたりで平均すると 1 年間に論文 6 本、科学研究費 1 件、研究発表 2 回である。発掘調査で忙殺されている現実を考慮すると驚異的な活動状況とっていい。

(資料番号 B-1-1) 研究活動状況一覧

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	合計
論文・著書	19	5	6	14	44
学会発表	6	3	1	2	12
科学研究費採択件数	6	1	1	0	8

(出典：各教員による提出書類)

(資料番号 B-1-2) 研究業績発表状況一覧

○小畑弘己准教授 (平成 23 年 4 月異動により転出)

<平成 22 年度>

1. 小畑弘己・寺前直人・高橋照彦・田中史生 2010『ジュニア日本の歴史 1 国のなりたち』, 301頁, 小学館
2. Hiroki Obata, Isao Morimoto, and Susumu Kakubuchi 2010 Obsidian Trade Between Sources on Northwestern Kyushu Island and the Ryukyu Archipelago (Japan) During the Jomon Period. *Crossing the Straits: Prehistoric Obsidian Source Exploitation in the North Pacific Rim*. BAR International Series 2152, pp. 57-71, Edited by Yaroslav V. Kuzmin and Michael D. Glascock  
査読有
3. 小畑弘己 2010「近年の朝鮮考古学における古民族植物学」『季刊考古学』113, 101-104 頁, 雄山閣出版
4. 小畑弘己 2011「弓矢の始まりー石器からみた旧石器時代の終焉と縄文時代のはじまりー」『歴博フォーラム 縄文はいつからー地球環境の変動と縄文文化』, pp.19-35, 新泉社
5. 小畑弘己・真邊彩 2011「レプリカ法による水天向遺跡出土土器の圧痕とその意義」『水天

向遺跡』、鹿児島県薩摩郡さつま町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)、126-129頁、鹿児島県さつま町教育委員会

6. 宮ノ下明大・小畑弘己・真邊 彩・今村太郎 2010「堅果類で発育するコクゾウムシ」『家屋害虫』32-2, pp.59-63. 査読有
7. Hiroki OBATA, Aya MANABE, Naoko NAKAMURA, Tomokazu ONISHI, Yasuko SENBA 2011
8. A New Light on the Evolution and Propagation of Prehistoric Grain Pests: the World's Oldest Maize Weevils Found in Jomon Potteries, Japan. 電子科学ジャーナル PLoS ONE (<http://www.plosone.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pone.0014785>) 査読有
9. 小畑弘己 2011『東北アジア古民族植物学と縄文農耕』, .310頁, 同成社
10. 小畑弘己 2011「第I部第4章 博多遺跡群出土銭貨集成」福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編考古3, 164-195頁, 福岡市
11. 小畑弘己 2011「第III部第1章 福岡市内出土の植物遺存体集成」福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編考古3, 373-527頁, 福岡市
12. 小畑弘己 2011「第III部第2章 圧痕資料」福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編考古3, 532-541頁, 福岡市
13. 小畑弘己 2011「コラム⑩ 圧痕レプリカ法とは」福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編考古3, 542-543頁, 福岡市
14. 小畑弘己 2011「第IV部第3章 出土銭からみた中世の博多」福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編考古3, 641-656頁, 福岡市
15. 小畑弘己 2011「第IV部第5章 植物遺存体からみた福岡の歴史」福岡市史編集委員会編『新修福岡市史』資料編考古3, 672-701頁, 福岡市
16. 小畑弘己・種子圧痕プロジェクト 2010「種子圧痕からみた縄文時代の栽培植物-2008・2009年度の研究成果から-」『日本考古学協会第76回総会研究発表要旨』, 44-45頁, 日本考古学協会
17. 小畑弘己・真邊 彩 2010「アウラガ遺跡における植物遺存体の古民族植物学的研究」『日本植生史学会第25回大会講演要旨集』, 23頁, 日本植生史学会
18. 小畑弘己・真邊 彩・宮ノ下明大 2010「コクゾウムシからみた縄文時代の植物性食料の貯蔵形態」『日本植生史学会第25回大会講演要旨集』, 24-25頁, 日本植生史学会
19. Hiroki Obata 2010 An advance of study on the Jomon, Neolithic in Japan, people's life style using X-ray CT scans. *X-ray CT Visualization for Socio-Cultural, Engineering and Environmental Materials, X-Earth (IWX) 2010*, pp.62-67, Kumamoto University

○松田光太郎准教授(平成24年4月着任)

<平成24年度>

1. 松田光太郎「書評 今村啓爾編『異系統土器の出会い』」『人文社会科学研究』25、91-97頁、千葉大学人文社会科学研究所、2012年9月
2. 松田光太郎『葉山島中平遺跡』かながわ考古学財団調査報告286 1・15-20・21-50・67-70頁 公益財団法人かながわ考古学財団 2012年12月
3. 松田光太郎「諸磯c式土器の成立と土器情報の伝達」『型式論の実践的研究I』人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書251、1-11頁、千葉大学大学院人文社会科学研究所、2013年2月
4. 松田光太郎『子易・大坪遺跡 子易・町屋裏遺跡』かながわ考古学財団調査報告292、1-6・19-26・538-540頁 公益財団法人かながわ考古学財団、2013年3月

<平成25年度>

1. 松田光太郎「縄文時代前期土器の突起が示す地域性と交流-関東地方の諸磯b式土器の渦巻突起に着目して」『先史学・考古学論究VI』、57-66頁、龍田考古会、2014年2月
2. 松田光太郎「諸磯式土器における浮線文の発生と北白川下層IIc式土器の成立」『型式論の実践的研究II』人文社会科学研究所研究プロジェクト報告書、53-71頁、千葉大

学大学院人文社会科学部研究科、2014年2月

3. 松田光太郎「書評 阿部芳郎編『移動と流通の縄文社会史』」『人文社会科学研究』28号、264～271頁、千葉大学大学院人文社会科学部研究科、2014年3月
4. 松田光太郎『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書X』167-248・318-342頁、熊本大学埋蔵文化財調査センター、2014年3月

○大坪志子助教

<平成22年度>

1. 大坪志子「縄文時代九州産石製装身具の波及」『先史学・考古学論究』V、龍田考古会、pp. 223-237.

<平成23年度>

1. 大坪志子「第10節 縄文時代石製装身具の科学分析」『北井門遺跡2次調査』公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター、pp. 531-538. 2011年
2. 大坪志子「西南戦争遺跡出土遺物の蛍光X線分析」『玉東町西南戦争遺跡調査総合報告書』玉東町文化財調査報告 第8集、玉東町教育委員会、pp. 157-164. 2011年
3. 大坪志子『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』17、熊本大学埋蔵文化財調査センター、pp. 1-67、(共著：小畑弘己). 2011年
4. 大坪志子「水天向遺跡出土の縄文時代石製装身具の化学分析」『水天向遺跡』さつま町埋蔵文化財発掘調査報告書(4)、鹿児島県さつま町教育委員会、pp. 130-134. 2012年3月
5. 大坪志子『熊本大学構内遺跡発掘調査報告VIII』熊本大学埋蔵文化財調査報告書第8集、熊本大学埋蔵文化財調査センター、pp. 1-135、(共著：小畑弘己). 2012年3月

<平成24年度>

1. 大坪志子「第6節4・5号甕棺墓出土の勾玉の材質分析」『吹上VI』日田市埋蔵文化財調査報告書第112集、34-36. 2013年3月
2. 大坪志子『熊本大学構内遺跡発掘調査報告IX』熊本大学埋蔵文化財調査報告書第9集、熊本大学埋蔵文化財調査センター、pp. 1-251(共著：小畑弘己). 2013年3月

<平成25年度>

1. 「玦状耳飾」『季刊考古学』第125号、雄山閣、pp. 50-54. 2013年
2. 「縄文管玉研究の展望」『玉文化』第10号、日本玉文化研究会、pp. 25-30. 2013年
3. 「縄文時代後・晩期九州의石製装身具와韓半島」『한국 선사 · 고대의 옥문화 연구』복천박물관、pp. 138-144. 2013年
4. 「九州の大珠」『先史学・考古学論究』VI、龍田考古会、pp. 223-237. 2014年3月
5. 『熊本大学構内遺跡発掘調査報告IX』熊本大学埋蔵文化財調査報告書第10集、熊本大学埋蔵文化財調査センター、pp. 1-251(共著：小畑弘己). 2014年3月

○山野ケン陽次郎助教(平成25年10月着任)

<平成25年度>

1. 山野ケン陽次郎「コラム シャコガイ製斧」『季刊考古学』第125号 pp. 95-96 2013年11月 雄山閣出版
2. 山野ケン陽次郎「先史琉球列島におけるマクラガイ科製玉類の研究」『奄美考古』第7号 2014 pp. 1-17 2013年12月 奄美考古学会
3. 山野ケン陽次郎「先史琉球列島におけるイモガイ科製貝輪の研究」『先史学・考古学論究』VI pp. 35-53 2014年2月 龍田考古会
4. 山野ケン陽次郎「先史琉球列島における貝製品の変化と画期-貝製装飾品を中心に-」『琉球列島先史・原始時代における環境と文化の変遷に関する実証的研究 研究論文集』第2集 pp. 277-292 2014年3月 六一書房
5. 山野ケン陽次郎「先史琉球列島における円盤状貝製品の研究」『Archaeology from the

(出典：各教員による提出書類)

(資料番号 B-1-3) 科学研究費採択の状況

○小畑弘己准教授

1. 平成 22 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「レプリカ・セム法による極東地域先史時代の植物栽培化過程の実証的研究」研究代表者 小畑弘己 8,200 千円
2. 平成 22 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「モンゴル帝国興亡史の海面を目指した環境考古学的研究」研究分担者小畑弘己 500 千円
3. 平成 22 年度基盤研究 (A) 「日本列島と大陸との人の交流に関する人類学的研究」研究分担者小畑弘己 1,600 千円
4. 平成 22 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A) 「極東古集団の形成・統合」研究分担者小畑弘己 100 千円
5. 第 39 回 (平成 22 年度) 三菱財団人文科学研究助成 「古民族植物学からみた遊牧民国家における農耕の実態研究」研究代表者小畑弘己 3,900 千円 (22 年度 260 千円)

○大坪志子助教

1. 『石製装身具の石材分析からみた縄文社会の地域間交流と農耕化への変遷過程の研究』平成 21～24 年度科学研究費補助金 若手研究 (A)  
 総額 24,050,000 円 平成 21 年度 6,370,000 円  
 平成 22 年度 5,720,000 円  
 平成 23 年度 5,720,000 円  
 平成 24 年度 6,240,000 円
2. 『西南戦争遺跡出土遺物の蛍光 X 線分析業務』玉東町教育委員会  
 平成 23 年度 350,000 円

(出典：各教員による提出書類)

(資料番号 B-1-4) 研究発表

○小畑弘己准教授

<平成 22 年度>

1. 小畑弘己・種子圧痕プロジェクト 2010 「種子圧痕からみた縄文時代の栽培植物－2008・2009 年度の研究成果から－」『日本考古学協会第 76 回総会研究発表要旨』, 44-45 頁, 日本考古学協会
2. 小畑弘己・真邊 彩 2010 「アウラガ遺跡における植物遺存体の古民族植物学的研究」『日本植生史学会第 25 回大会講演要旨集』, 23 頁, 日本植生史学会
3. 小畑弘己・真邊 彩・宮ノ下明大 2010 「コクゾウムシからみた縄文時代の植物性食料の貯蔵形態」『日本植生史学会第 25 回大会講演要旨集』, 24-25 頁, 日本植生史学会
4. Hiroki Obata 2010 An advance of study on the Jomon, Neolithic in Japan, people's life style using X-ray CT scans. *X-ray CT Visualization for Socio-Cultural, Engineering and Environmental Materials, X-Earth (IWX) 2010*, pp. 62-67, Kumamoto University

○大坪志子助教

<平成 22 年度>

1. 2010 年 「九州縄文時代の装身具 -ヒスイと九州ブランド-」北九州市立自然史・歴史博物館

<平成 23 年度>

1. 日本考古学協会第 77 回総会研究発表 「縄文時代後晩期における九州産石製装身具の波及」

(2011. 5. 29. 国学院大学)

2. 第9回日本玉文化研究会北部九州地方大会「九州における縄文時代後晩期の石製装身具の様相」糸島市立伊都国歴史博物館. (2011. 10. 29. 糸島市立伊都国歴史博物館)
3. 平成23年度九州考古学会総会「石材からみた九州縄文時代後晩期における石製装身具」西南学院大学. (2011. 11. 26. 西南学院大学)

<平成24年度>

1. 東アジア国際ミニシンポジウム「弥生の人々の祈りとその源流」, 壱岐市立一支国博物館,

<平成25年度>

1. 「縄文時代早期～前期の石製装身具」第10回 日・韓新石器時代共同学術大会. 2013. 7. 13-14. 韓国 済州大学校博物館)
2. 「九州の玉生産と流通 ―四国との関係を中心に―」開館15周年記念特別企画記念シンポジウム『玉の魅力に迫る ―四国と周辺の玉生産と玉文化―』「徳島市教育委員会・徳島市立考古資料館・日本玉文化学会. (2013. 11. 9-10. 徳島市立考古資料館)

(出典：各教員による提出書類)

観点 大学の共同利用・共同研究拠点に認定された付置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の実施状況

(観点到に係る状況)

- ・該当なし。

(水準)

(判断理由)

#### 分析項目Ⅱ研究成果の状況

観点 研究の成果(大学の共同利用・共同研究拠点に認定された付置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。

(観点到に係る状況)

報告書ならびに年報が毎年計画的に刊行されており(資料番号B-2)、あわせて研究成果が着実にあがっていることは、別添の研究業績説明書の通りである。

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ・研究成果に対する評価の極めて高い研究がある。
- ・発掘調査報告書ならびに年報が年度ごとに刊行されている。

(資料番号B-2) 埋蔵文化財調査センター報告書・年報

1. 熊本大学埋蔵文化財調査室2010『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅵ』
2. 熊本大学埋蔵文化財調査室2010『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅶ』
3. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2011『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅷ』
4. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2013『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅸ』
5. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2014『熊本大学構内遺跡発掘調査報告書Ⅹ』
6. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2011『熊本大学構内遺跡発掘調査室年報2009年度』16
7. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2012『熊本大学構内遺跡発掘調査センター年報2010年度』17
8. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2013『熊本大学構内遺跡発掘調査センター年報2011年度』18
9. 熊本大学埋蔵文化財調査センター2014『熊本大学構内遺跡発掘調査センター年報2012年度』19

## 4. 質の向上度の分析及び判定

## (1) 分析項目 I 研究活動の状況

本センターは平成 23 年 10 月設立であるため、前身である埋蔵文化財調査室における平成 21 年の研究状況と比較して述べる。

研究活動の状況は、発表論文数、科学研究費獲得件数、研究発表数、科学研究費補助金受入額、獲得外部資金獲得金額において、高い質を維持していると判断できる（資料番号 B-3～6）。なお、平成 23 年と 24 年の活動数が少ないのは、平成 23 年に准教授が転出し専任教員が 1 人になったこと、新たに就任した准教授が 24 年度に着任 1 年目であるという事情による。

## (資料番号 B-3) 研究活動状況一覧

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
論文・著書	6	19	5	6	14
学会発表	5	6	3	1	8
科学研究費採択件数	8	6	1	1	0

(出典：各教員による提出書類)

## (資料番号 B-4) 科学研究費補助金受入額の推移

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
6370 千円	16120 千円	5720 千円	6240 千円	0

(出典：各教員による提出書類)

## (資料番号 B-5) 獲得外部資金獲得金額の推移

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
6370 千円	16380 千円	6070 千円	6240 千円	0

(出典：各教員による提出書類)

## (資料番号 B-6) 平成 21 年度の研究活動状況

## 研究業績発表状況一覧

## ○小畑弘己准教授

1. 小畑弘己 2009「東北アジアの古代・中世の農耕－漠北の農耕と栽培植物：アウラガ遺跡資料を中心として－」『加藤晋平先生喜寿記念論文集 物質文化史学論聚』, 177-202 頁, 北海道出版企画センター.
2. 小畑弘己 2009「日本先史時代のマメ類と栽培化」『ユーラシア農耕史 4 さまざまな栽培植物と農耕文化』, 252-261 頁, 臨川書店.
3. 小畑弘己 2010「縄文時代におけるアズキ・ダイズ栽培について」『先史学・考古学論究』V, 239-272 頁, 龍田考古会.
4. 小畑弘己 2010「遊牧民族と農耕」『チンギス・カンの戒め－モンゴル草原と地球環境問題－』, 101-116 頁, 同成社.

## ○大坪志子助教

1. 『熊本大学構内遺跡発掘調査報告 VI』熊本大学埋蔵文化財調査報告書第 6 集, 熊本大学埋蔵文化財調査室, pp. 1-191, (共著：小畑弘己) 2010 年 3 月

## 学会発表状況

## ○小畑弘己准教授

1. 小畑弘己 2009「先史農耕と読み解く－近年の古民族植物学の理論と方法－」『第 24 回日本植生史学会大会講演要旨集』, 13-21 頁, 日本植生史学会・九州古代種子研究会.

## 外部資金獲得の状況

## ○小畑弘己准教授

1. 平成 21 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A)「レプリカ・セム法による極東地域先史時代の植物栽培化過程の実証的研究」研究代表者 9,700 千円
2. 平成 21 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A)「モンゴル帝国興亡史の海面を目指した環境考古学的研究」研究分担者 100 千円
3. 平成 21 年度文部科学省科学研究費補助金 特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成－寧波を焦点とする学際的創生－」研究区分 C01-06「11～16 世紀の東アジア海域と寧波－博多関係」研究分担者 600 千円
4. 平成 21 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (B)「香川県金山産サヌカイト製石器の広域流通システムの復元と先史経済の特質の検討」研究分担者 0 円
5. 平成 21 年度基盤研究 (S)「ギリシャ古代メッセネおよびフィガリアの建築と都市環境に関する学際的研究」研究分担者 0 円
6. 平成 21 年度基盤研究 (A)「日本列島と大陸との人の交流に関する人類学的研究」研究分担者 1,600 千円
7. 平成 21 年度日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究 (A)「極東古集団の形成・統合」研究分担者 100 千円

○大坪志子助教

1. 2009 年～2012 年『石製装身具の石材分析からみた縄文社会の地域間交流と農耕化への変遷過程の研究』平成 21～24 年度科学研究費補助金 若手研究 (A)  
総額 24,050,000 円 平成 21 年度 6,370,000 円

(出典：各教員による提出書類)

(2) 分析項目Ⅱ 研究成果の状況

重要な質の変化あり。発掘調査成果を基礎とした植物栽培の研究が、准教授・助教の研究によってこの 5 年間で古民族植物学に発展しており、改善・向上していると判断される。

(別添 研究業績説明書)

### Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

## 1. 社会貢献の目的と特徴

### ○目的

埋蔵文化財調査センターが調査した埋蔵文化財は国民共有の財産である。そのため、発掘調査の成果を社会にひろく還元することを基本方針とし、併せて成熟した社会の発展のために文化財保護思想の普及を目指す。

### ○特徴

- ① 義務教育・高等学校教育現場や社会教育の場において、埋蔵文化財の調査・研究の成果の普及・啓発が期待されている。
- ② 地域おこしの素材として、土地と深いかかわりのある埋蔵文化財の調査成果の還元が期待されている。
- ③ 地域に開かれた大学として、構内遺跡の調査成果の地域住民への還元が期待されている。

### [想定する関係者とその期待]

- ・ 小学校・中学校・高等学校の学校現場から、考古学の調査・研究成果を用いた授業の要請が想定される。
- ・ 博物館、教育委員会、社会人・社会人サークルや社会教育関係団体から、考古学の調査・研究成果を用いた講座・レクチャーの要請、考古学の調査成果に関する問い合わせが想定される。
- ・ 本学卒業生から構内遺跡に関して知りたいという要請が想定される。
- ・ 地域住民から大学周辺の歴史を知りたい、構内遺跡の調査成果を知りたいという要請が想定される。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- ・ 専門分野の異なる教員が在籍し、外部からの要望に適切に対応することが可能である。
- ・ 大学構内で開催する卒業生を対象とするホームカミングデー(毎年11月初旬に実施)では、現地の見学や展示遺物を通し大学周辺の歴史を理解することができ、高等学校の授業では調査研究の成果を活用することができ、参加者の満足度が高い。

### 【改善を要する点】

- ・ 学校現場や社会人からの要請は不定期であり、本センターのもつ情報をより効果的に学外に発信し、調査成果を広く普及する必要がある。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点到係る状況)

・ 組織の設置目的として、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用することを目的とすると明記され、『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載している。これは本学の中期目標「国や自治体との連携の推進」と同様の目的を志向したものである。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 埋蔵文化財の発掘調査は、国(文化庁)、熊本県、熊本市との行政的連携によって初めて実現され、その基本方針に沿って文化財保護活動(発掘調査)を行っている。活用においては熊本市、熊本県と日常的に密接な情報交換を継続している。また、熊本県環境影響評価審査会の委員を助教が務めており、「国や自治体との連携の推進」を実現している。

「センターは、熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする」(「熊本大学埋蔵文化財調査センター規則」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 19 2012年度』)という、目的を達成するために指針を定め、『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載され、公表・周知されているため。

(資料番号 C-1) 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (14 頁)

(資料番号 C-1) 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則

## 1. 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則(H23.9.22～)

(趣 旨)

第1条 この規則は、熊本大学学則(平成16年4月1日制定)第9条第2項の規定に基づき、熊本大学埋蔵文化財調査センター(以下「センター」という。)に関し必要な事項を定める。

(設置目的)

第2条 センターは、熊本大学(以下「本学」という。)に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする。

(業 務)

第3条 センターは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること。
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存に関すること。
- (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
- (4) その他センターの目的を達成するために必要な事項。

(職 員)

第4条 センターに、次に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 専任教員
- (3) その他必要な職員

(センター長)

第5条 センター長の選考は、本学の専任の教授のうちから、第7条に規定する委員会の推薦に基づき、学長が行う。

- 2 センター長は、センターの業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。
- 4 センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

(専任教員)

第6条 専任教員の選考は、熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき、学長が行う。

2 専任教員の選考に関し必要な事項は、別に定める。

(委員会の設置)

第7条 センターの管理運営に関する事項を審議するため、熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会の組織)

第8条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
  - (2) センターの専任教員
  - (3) 文学部、教育学部、法学部及び医学部附属病院から選出された教授又は准教授 各1人
  - (4) 大学院自然科学研究科及び大学院生命科学研究部から選出された教授又は准教授 各2人
  - (5) 運営基盤管理部の施設担当部長
  - (6) その他センター長が必要と認めた者 若干人
- 2 前項第3号から第8号まで及び第10号の委員は、学長が委嘱する。
  - 3 第1項第3号から第8号までの委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。
  - 4 第1項第3号から第8号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。
  - 5 第1項第10号の委員の任期は、学長が委嘱の都度定めるものとし、再任を妨げない。

(委員会の審議事項)

第9条 委員会は、センターに関する次に掲げる事項(熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会

規則(平成16年4月1日制定)第3条に定める事項を除く。)を審議する。

- (1) センターの業務に関すること。
- (2) センター長候補者の推薦に関すること。
- (3) 施設及び予算に関すること。
- (4) その他センターの管理運営に関すること。

(委員長)

第10条 委員会に、委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第11条 委員会は、委員の過半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

- 2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第12条 委員長は、必要があるときは、委員以外の者を委員会に出席させ、意見を聴くことができる。

(事務)

第13条 センター及び委員会の事務は、運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する。

(雑則)

第14条 この規則に定めるもののほか、センターの運営に関し必要な事項は、センター長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成23年10月1日から施行する。
- 2 国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則(平成16年4月1日制定)及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項(平成16年4月1日制定)は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に任命されるセンター長は、第5条第1項の規定にかかわらず、この規則により選考されたものとみなす。
- 4 この規則施行後、最初に任命されるセンター長の任期は、第5条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。
- 5 この規則施行後、最初に委嘱される第8条第1項第3号及び第4号の委員の任期は、同条第3項の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

(出典：「熊本大学埋蔵文化財調査センター規則」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報 19 2012年度』)

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

・平成24年度は准教授1名・助教1名、平成25年度は准教授1名・助教2名の教員を配置し、学校現場からの要請や社会人からの問い合わせに対応するとともに、ホームカミングデーなど大学の対外活動にも積極的に参加している。教員が各地の博物館活動に協力し、本センターでの活動にもとづいた講演を行っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 専門分野の異なる教員が在籍し、それぞれの専門や調査・研究実績に応じて対応し、相応の効果をあげている。

(資料番号 B-1-2) 研究業績発表一覧(4頁) 教員の研究実績

(資料番号 C-2-1) 社会貢献活動実施状況(16頁)

## (資料番号 C-2-1) 社会貢献活動実施状況

	実施日時	内容	担当	種別	参加者	会場	実施主体
平成 24年 度	平成 25 年 3 月 13 日 (水) 13:25～15:15	「九州ブランド の縄文時代装身 具」	助教 1 名	講義	東アジア 歴史・中国 語コース 1～2年 生 15 名	長崎県立老 岐高等学校	長崎県立 老岐高等 学校
平成 25年 度	平成 25 年 11 月 3 日 (日) 13:30～14:50	ホームカミング デー キャンパ スツアー 「地 下の文化財散 歩」	准教 授 1 名	体験 事業	熊本大学 卒業生 12 名	熊本大学 黒髪南地区	熊本大学 運営基盤 管理部総 務ユニッ ト ホーム カミング グデー担 当

(出典：教員による提出書類、「ホームカミングデー実施報告」)

## (資料番号 C-2-2) 新聞記事掲載

## 大坪志子助教の講演会成果記事

	掲載日時	内容	掲載誌
平成 25 年度	平成 25 年 11 月 13 日	「東アジアの装身具から～瑠 璃耳飾を中心に～」	山陰中央新報 14 面

(出典：『山陰中央新報』)

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

・平成 24 年度には長崎県立老岐高等学校の依頼を受け、助教が講義を行った。また平成 25 年度はホームカミングデーにおけるキャンパスツアーに参画して、熊本大学卒業生に構内遺跡の案内や遺物の説明を行った。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 老岐高等学校の授業への感想が寄せられた。キャンパスツアー参加者から、口頭で大変有意義であったとホームカミングデーの主催者に意見が寄せられた。

(資料番号 C-3 ホームカミングデー実施報告 17 頁参照)

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

・参加者の感想の分析ならびに実施報告に基づいて問題に対処し、次年度に改善することを周知している。また毎月 1 回定例開催しているセンター会議においても開催報告および分析を行っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 実施報告を速やかに作成・報告し、定例の会議においても内容を分析しているため。

(資料番号 C-3 ホームカミングデー実施報告 17 頁参照)

(資料番号 C-3) ホームカミングデー実施報告

第8回ホームカミングデー 実施報告

2013. 11. 6

1、日 時：平成25年11月3日(日) 13:30～14:50 黒髪南キャンパス

2、参加者数：総人数 12名(応募17名)

熊本大学卒業生(教育学部・法文学部・工学部・理学部)

3、当日担当職員

- ・宮下雄治(総務チーム係長)、松田光太郎(埋蔵文化財調査センター)

4、コースと見学内容

百周年記念館前(集合13:30)[縄文時代]→工学部研究棟[弥生時代等]→総合研究棟[古代]→  
衝撃極限環境研究実験棟[近世]→国際革新技術研究拠点施設発掘調査地点[近代]→埋蔵文化  
財調査センター(14:10～14:30)[展示]→解散

5、まとめ

- ・今回はホームカミングデー初参加であった。紫熊祭期間中とは言え、黒髪南キャンパスは人や車の  
通りが少なく、今回設定したコースは問題なく、案内することができた。  
またセンター展示室ではホームカミングデーに合わせて展示室の展示を開始した。応募者の中には欠席者  
もいたので、当日参加者は12名で、センター展示室はスペース的に余裕をもって見学してもらえた。
- ・参加者からは大変有意義であったという感想があった。

(出典：「ホームカミングデー実施報告」平成25年)

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

- ・熊本大学ミュージアム構想に参画し、第2期ユニバーシティ・ミュージアム構想5カ年計画の一環として、体験型の「熊大 地下と地上の文化財散歩」、展観事業としての「テーマ展示」・「速報展示」の計画を提示している。
- ・組織の設置目的として、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とすると明記され、『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載している。

(資料番号 C-1) 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (14・15 頁参照)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 第2期ユニバーシティ・ミュージアム構想5カ年計画や熊本大学埋蔵文化財調査センター規則において、目的を達成するための適切な方針を示している。また熊本大学埋蔵文化財調査センター規則は『熊本大学埋蔵文化財調査年報』に掲載し、公表・周知しているため。



観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

・第2期ユニバーシティ・ミュージアム構想5カ年計画に沿い、体験事業として「熊大 地下と地上の文化財散歩」を平成25年度に実施した。

・エフエムくまもと 熊大ラジオ公開授業・知的冒険の旅において、考古学一般や研究活動の紹介を行った。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 第2期ユニバーシティ・ミュージアム構想5カ年計画に従い事業を実施しているため。またラジオ公開授業によって、研究成果を地域に発信したため。

(資料番号 C-5-1) 地域貢献活動実施状況 (1)

	実施日時	事業	種別	参加者	会場	実施主体
平成25年度	平成25年 5月20日(月) ～24日(金) 13:00～14:00	「地下と地上 の文化財散歩」	体験事業	大学生・大 学職員・一 般 延39名	熊本大学 黒髪北・南 地区	熊本大学埋蔵 文化財調査セ ンター

(出典:「平成25年度 地下と地上の文化財散歩 実施報告」)

(資料番号 C-5-2) 地域貢献活動実施状況 (2)

	実施日時	内容	担当	種別	会場	実施主体
平成 25年 度	平成 25 年 1 月 13 日 (月・祝)	熊大ラジオ公開 授業・知的冒険 の旅	准教授 1 名	ラジオ出 演	エフエム ク マモト	エフエム クマモト
	平成 25 年 1 月 27 日 (月)	熊大ラジオ公開 授業・知的冒険 の旅	助教 1 名	ラジオ出 演	エフエム ク マモト	エフエム クマモト

(出典：FMK Morning Glory ホットキャスト)

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

・平成 25 年度開催の体験事業「熊大 地下と地上の文化財散歩」は平成 25 年 5 月 20～24 日まで 5 日間開催した。開催日程の内、前半 3 日間 (5 月 20 日～22 日) は黒髪北キャンパス、後半 2 日間 (5 月 23・24 日) は黒髪南キャンパスで開催し、開催場所を異なるものにしたが、両方に参加する参加者が 39 名中 4 名 (2 名×2 日) 存在し、参加者の反応は良好であった。またアンケートは実施しなかったが、開催期間中、参加者から直接担当教員に寄せられた意見には、「次年度の開催を希望します」という意見があり、好評であった。(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

・事業実施中に参加者より聞いた感想は良好であり、満足度は高いと判断されたため。

(資料番号 C-6) 地域貢献活動実施報告 (22 頁)

## (資料番号 C-6) 地域貢献活動実施報告

## 平成25年度 地下と地上の文化財散歩 実施報告

2013. 5. 28

- 1、日 時：平成25年5月20日（月）～22日（水）13:00～13:50 黒髪北キャンパス  
平成25年5月23日（木）・24日（金）13:00～13:50 黒髪南キャンパス

- 2、参加数：総人数39名

	全体	教員	職員	学生	一般
5月20日	8	0	6	1	1
5月21日	10	2	5	1	2
5月22日	5	0	2	3	0
5月23日	10	0	3	5	2
5月24日	6	0	2	1	3
総計	39	2	18	11	8

- 3、利用広報媒体

- ・広報媒体は学内メール、ちらし、大学ホームページを利用した。  
学内メールで知った人は教職員で、ちらしは学生、ホームページは一般の方が利用した。

- 4、コース

## 【黒髪北コース】

赤門（集合13:00）→放送大学熊本学習センター・附属図書館南棟→化学実験場通過→くすのき会館→五高記念館 →武夫原グラウンド→文化部サークル棟（解散13:50～13:55）

\*各地点では写真パネルとパンフレット地下の文化財を使用して解説した。

文化部サークル棟では押型文の施文実演が好評であった。「土器に使用する粘土はどのような粘土を使っていたのですか？」などの質問が出る。

## 【黒髪南コース】

総合情報基盤センター入口（集合13:00）→工学部研究資料館→百周年記念館前→工学部研究棟→総合研究棟→埋蔵文化財調査センター（解散13:50～14:10）

- 5、当日の所員体制

今年度は21日より立会調査が始まった関係で、20日のみ2名（1名解説・1名誘導・写真撮影）、それ以降は1名で対応した。雨天日がなかったので、問い合わせの電話は少なかった。

- 6、その他

\*片方のコースしか参加できなかった人から、来年度の開催を希望する意見があった。

7、まとめ

- ・今回は学内関係者を主な対象とした。職員には運営基盤管理部総務ユニット（ホームカミングデー担当）職員、政策創造研究教育センター職員などが含まれ、文化財散歩がどのようなものか、そしてそれが所属部署の業務に生かせるかどうかという関心をもって参加していることがわかった。
- ・また新入教員の参加もあり、新入教職員の中には、大学（職場）の歴史や環境に対し、関心がある人がいることが改めてわかった。
- ・学生や一般の方は歴史への関心から参加しているようであった。「大学の下にこんな遺跡があるとは知らなかった。」「この辺りの歴史がわかり、大変勉強になりました。」などの感想があった。また来年度の開催を希望する意見もあった。

（文責 松田光太郎）

（出典：「平成 25 年度 地下と地上の文化財散歩 実施報告」）

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

- ・体験事業「熊大 地下と地上の文化財散歩」では行事終了後、実施報告を作成し、問題点を抽出した。
- ・また毎月1回定例開催しているセンター会議においても開催報告および分析を行っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ・各事業において、行事終了後、実施報告を作成し、問題点を抽出し、今後の参考に行っているため。

(資料番号 C-6) 地域貢献活動実施報告 (22・23 頁参照)

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

・平成23年9月以前の埋蔵文化財調査室の要項には、埋蔵文化財活用業務は含まれておらず、社会貢献は対象外であった。

・平成24年度は高等学校における講義、平成25年度には卒業生を対象にした体験事業を開始し、「重要な質の変化あり」と判断できる。また質の向上度については、社会貢献活動は年1回、継続して実施しているため、質を維持していると判定される。

(2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

・平成23年9月以前の埋蔵文化財調査室の要項には、埋蔵文化財活用業務は含まれておらず、社会貢献は対象外であった。

・平成25年度には体験事業(熊大 地下と地上の文化財散歩)を開催しており「重要な質の変化あり」と判断できる。また質の向上度については、地域貢献活動は年1回実施しており、質を維持していると判断される。

(資料番号 C-7) 熊本大学埋蔵文化財調査室要項

## 2. 熊本大学埋蔵文化財調査室要項

(趣 旨)

1 この要項は、国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則(平成16年4月1日制定)第7条第2項の規定に基づき、国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査室(以下「調査室」という。)の業務、組織その他必要な事項について定める。

(業 務)

2 調査室は、国立大学法人熊本大学(以下「本学」という。)の施設整備に伴う埋蔵文化財の発掘調査に関する次の業務を行う。

- (1) 実施計画の立案及び実施に関すること。
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存に関すること。
- (3) 文化庁等に提出する報告書の作成に関すること。
- (4) その他必要な事項

(組 織)

3 調査室に室長を置く。

4 室長は、調査室に関する業務を掌理する。

5 調査室に調査員その他必要な職員を置くことができる。

6 調査員は、発掘調査に関する業務を行う。

(室長等の任命)

7 室長及び調査員は、本学の教員のうちから学長が任命する。

8 学長は、必要がある場合は、学外の者を調査員に委嘱することができる。

(事 務)

9 調査室の事務は、関係学部等の協力を得て、運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する。

(雑 則)

10 この要項に定めるもののほか、調査室の運営に必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

11 この要項は、平成16年4月1日から実施する。

附 則(平成22年9月30日要項第30号)

この要項は、平成22年10月1日から施行する。

(出典:「熊本大学埋蔵文化財調査室要項」)

#### IV 国際化の領域に関する自己評価書

## 1. 国際化の目的と特徴

### ○目的

国際化が進む現在、英語圏やアジア諸国を意識した活動は当然のこととなっている。本センターは、調査成果の報告において、その要旨を英語・ハングルで表記し、一般向けの説明では英語・中国語・ハングルを併記することを基本方針としている。

### ○特徴

実際の出土遺物や調査記録に基づく、熊本大学周辺の歴史や構内遺跡の調査成果について、多言語化を通じて、留学生や本学を訪問した外国人研究者に情報提供を行い、熊本大学の埋蔵文化財についての知識と、文化財保護の取り組みの周知をすることを特色としている。

#### [想定する関係者とその期待]

- ・外国人留学生から、熊本大学周辺の歴史を知りたいという要望がある。
- ・外国人研究者から、熊本大学構内遺跡の調査について知りたいという要望がある。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

## 【優れた点】

- ・ 多言語化計画に基づき、調査成果を多言語化して公表している。
- ・ 毎年『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』において、調査成果の要約を多言語で掲載している。

## 【改善を要する点】

- ・ 本センター常設展示の多言語化。
- ・ 報告書要旨の多言語化。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

- ・ 調査成果の多言語化は以下の3つで行う計画である。

『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』末尾のサマリー

『地下の文化財』外国語版

学内サイン-地下の文化財案内板

このうち『地下の文化財』外国語版の刊行計画は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』に記載されている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 調査成果を多言語で発信することは国際化の目的に合致しており、その計画の一部は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』に公表されている。また学内サイン-地下の文化財案内板の多言語表示計画が進んでいる。

(資料番号 D-1) 『地下の文化財』外国語版 刊行計画

## 序文

2012年4月、埋蔵文化財調査センター(以下「センター」)は関東の縄文時代研究者である松田光太郎准教授を新たなスタッフにお迎えして開所式を行い、同日第一回の運営委員会を開催して実質的な一歩を踏み出した。

2012年度センターが実施した調査は50件である(発掘調査6件、立会調査44件)。発掘調査では、医学部(本荘地区)で二つの大きな調査を実施した。そのうち一つ(医学部基礎研究棟B棟東側)とこわしにかかわる事前調査)では長さ36mにおよぶ近世初期の大溝が出た。以前の調査で出ていた溝とつながって本荘キャンパスの東を流れる二の井手用水路につながるようである。

もう一つの調査(国際先端医学研究拠点施設新営にかかわる事前調査)では、6世紀末から10世紀の建物跡を30軒検出した。柱の位置から復元された平安時代の建物の主軸は託麻郡の条里の方向と一致するので、この付近まで条里が及んでいたのだろう。

発掘調査と並んで重要なのが報告書の作成である。報告書の作成には発掘調査と同じくらの労力と時間がかかる。この刊行をもって発掘調査はようやく終了し、その成果は地域の歴史の1頁となって社会に還元される。本年度は学長裁量経費により2003・2006・2011年度調査の報告書刊行した。大学の配慮に感謝申し上げる。

ところで、調査成果の広報・普及活動もセンターにとって重要な業務である。2012年度は、既に刊行しているパンフレット「地下の文化財」(黒髪地区版)の中国語・英語版を作成した。A3版の表裏カラー版で、これ1枚で学内の遺跡散歩ができるようになっている。学内の遺跡になじみの薄い留学生や外国からのゲストにも、これを手に熊本大学の足下の歴史を楽しんでもらいたいと思う。このシリーズは本荘地区やその他の地区についても順次作成してゆく計画である。

学内開発を前にした遺跡の小刻みな消滅は、考古学を専らにする者にとっては心痛むことである。限られた条件で出来る限りの質の高い調査をして、遺跡の価値を学内外に生かしてゆきたい。

今年も施設部をはじめとする関係部局にお世話になった。各位にあつく御礼を申し上げる。

2014年1月

埋蔵文化財調査センター長  
文学部教授 木下尚子

(出典:「序文」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』19 2014)

(資料番号 D-2) デザインプランー地下の文化財案内板

熊本大学 屋外サイン整備ガイドライン  
 §6 デザインプラン (グラフィック)

Page No:  
 40

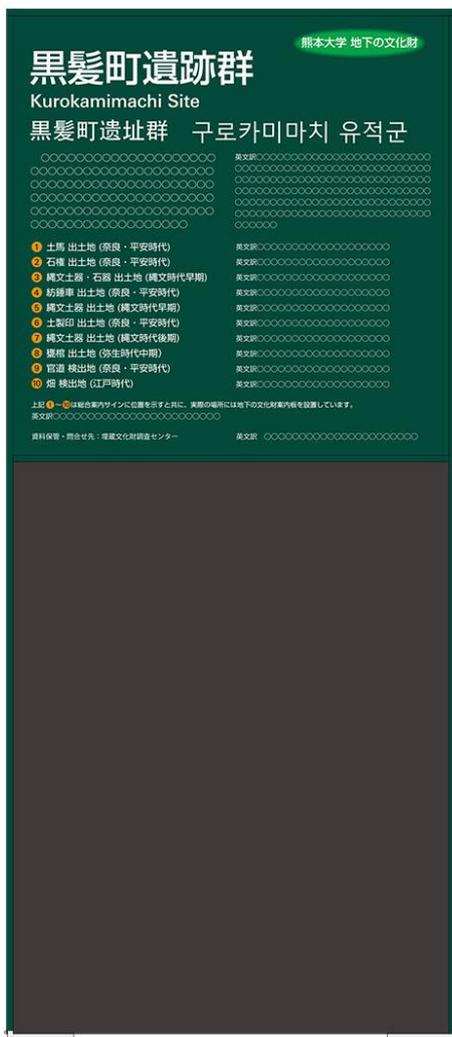
地下の文化財案内板

(総合)

- ・名称は4ヶ国語表記
- ・説明文は2ヶ国語表記
- ・地下の文化財リスト

(個別)

- ・名称は4ヶ国語表記
- ・説明文は2ヶ国語表記
- ・現地ではみることができないものなので写真表示



総合サイン



個別サイン

(出典：『熊本大学屋外サイン整備ガイドライン』40頁)

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。
---------------------------

(観点に係る状況)

- ・『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』17～19（平成23～25年度刊行）において英語と韓国語のサマリーを掲載した。
- ・『地下の文化財（黒髪版）』では英語・中国語・韓国語版を作成、配布している。
- ・学内サイン-地下の文化財案内板は現在計画段階にあり、平成26年度設置予定。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

埋蔵文化財調査センター展示室の常設展示や熊本大学構内遺跡発掘調査報告書の要旨は日本語のみであるが、『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』には毎年英語と韓国語のサマリーを掲載し、『地下の文化財』外国語版も3カ国語刊行済であるため。

(資料番号 D-3) 多言語化資料刊行状況

	刊行物	内容	発行年月日
平成23年度	『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』17	Summary 英語 Summary 韓国語	平成24年3月30日
平成24年度	『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』18	Summary 英語 Summary 韓国語	平成25年3月29日
平成25年度	『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』19	Summary 英語 Summary 韓国語	平成26年3月28日
平成24年度	Kumamoto University Buried Cultural Properties Map	英語版	平成24年12月1日
平成24年度	熊本大学校园内出土文物	中国語版	平成24年12月1日
平成25年度	구마모토 대학 지하 문화재	韓国語版	平成25年7月1日

(出典：各刊行物)

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

多言語化資料に関する学生・研究者の満足度に関する調査は行っていないが、留学生がセンター展示室を利用する際、『地下の文化財(黒髪版)』英語版・中国語版・韓国語版を手に取り参考にしている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)、留学生が埋蔵文化財調査センター展示室を利用する際、『地下の文化財(黒髪版)』英語版・中国語版・韓国語版を手に取り参考にしているため。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

多言語化は毎年推進すると同時に、翻訳に際しては専門家の指導を受けながら実施している。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 専門家の指導を受けながら多言語化を実施しているため。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

・『埋蔵文化財調査室年報』のサマリーは多言語で記述しているが、埋蔵文化財調査室（平成 23 年 9 月以前）の要項には、埋蔵文化財調査成果の国際化は含まれておらず、国際化は対象外であった。

（資料番号 C-7） 熊本大学埋蔵文化財調査室要項（25 頁参照）

・埋蔵文化財調査センター初年度（平成 23 年 10 月以降）は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』18 のサマリーは多言語で記述している。

・平成 24・25 年度は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』の他、『地下の文化財』では多言語による記載を行っており、国際化に向けた活動が適切に行われている。「重要な質の変化あり」と判断できると共に、質の向上度も改善・向上していると判定できる。

V 教育研究支援に関する自己評価書

## 1. 教育研究支援（その他の領域）の目的と特徴

### ○目的

熊本大学埋蔵文化財調査センター規則第2条（設置目的）に、「センターは、熊本大学に所在する遺跡を発掘調査するとともに、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とする」と定められている。

埋蔵文化財を活用して、大学教育を効果的に進めることを目的とする。

### ○特徴

- ・発掘調査現場、実際の出土資料等を用いた授業を展開できる。
- ・展示を利用した教育視線ができる。

### [想定する関係者とその期待]

- ・熊本大学生により、歴史分野の大学教育に係る支援が求められる。
- ・熊本大学職員より、生涯学習に関する教育研究支援が求められる。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- ・熊本大学埋蔵文化財調査センターの組織の目的として教育研究支援を掲げ、その計画に沿い、展示や出土遺物・発掘現場等を用いて、多岐にわたる教育研究支援を行っている。

### 【改善を要する点】

- ・授業等での展示室の活用は推進途上にあり、構内遺跡の調査成果の普及や、教員に対する情報提供が求められる。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、教育研究支援に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

埋蔵文化財調査センターの組織の設置目的として、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とすると明記されている。また組織の設置目的を含む熊本大学埋蔵文化財調査センター規則は『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』中に掲載され、活動の目的が公表されている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 埋蔵文化財調査センターの組織の目的において、組織の教育研究支援方針が定められ、それが『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』にて公表されているため。

(資料番号 C-1) 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (14・15 頁参照)

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

- ・出土品整理作業や発掘調査において、文学部歴史学科考古学専攻学生を技能補佐員として雇用することを事前に計画し、その計画に基づき実測や発掘調査の技術指導を行う。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 計画に沿って、教育研究支援を行っているため。

## (資料番号 E-1-1) 教育研究支援活動実績

	実施日時	内容	対象者	場所
平成 24年 度	平成24年10月～ 平成25年5月	技能補佐員として雇用した学生に対する室内整理作業技術指導	大学生2名 大学院生2名	熊本大学 埋蔵文化財調査センター
平成 25年 度	平成25年10月～ 平成26年2月	技能補佐員として雇用した学生に対する室内整理作業技術指導	大学生1名	熊本大学 埋蔵文化財調査センター
	平成25年5月	考古学専攻学生の卒業論文作成のための資料貸出(京町台遺跡群出土の近世陶磁器資料)	大学生1名	熊本大学 埋蔵文化財調査センター
	平成25年5月～ 平成25年9月	考古学専攻学生の卒業論文作成のための資料貸出(本庄遺跡出土の古墳時代前期土器資料)	大学生1名	熊本大学 埋蔵文化財調査センター
	平成25年11月	紫熊祭における、学生による、埋蔵文化財調査センターに関する展示支援	大学生10名	熊本大学全学教育棟

(出典：「労働関係通知書」、「利用許可申請書」、「紫熊祭展示実施報告」)

## (資料番号 E-1-2) 教育研究支援活動実績 実例報告

## 紫熊祭展示 実施報告

2013. 11. 6

1、日 時：[展示]平成25年11月2日(土)～11月4日(月・祝)

[展示解説]平成25年11月3日(日)17:00～18:00

平成25年11月4日(月・祝)14:00～15:00、16:00～17:00

2、場 所：黒髪北キャンパス 全学教育棟1階ロビー

3、参加者数：[展示]カウントせず。[展示解説]11月3日—10名、11月4日—16名

4、当日担当職員

- ・松田光太郎(埋蔵文化財調査センター) 展示解説のみ。ほかに紫熊祭実行委員会の学生1名が常駐

5、展示内容

- ・紫熊祭実行委員会が企画した「知っとこ 熊大」の埋蔵文化財調査センターの部門として参加
- ・ポスター掲示と遺物展示、展示解説からなる。ポスターは実行委員会が4枚作成。
- ・遺物はガラスケース(五高記念館所有)3個に、黒髪町遺跡群・本庄遺跡の縄文時代から古代までの遺物を約100点展示。
- ・展示解説は縄文時代：参加者に土器片、弥生時代：土器(甕棺)片、古代：土馬・円面硯・羽口のうち何個かを手にとらせ、その遺物の時代、意味について考えてもらった。

7、まとめ

- ・展示を見た人の感想の多くは、このような遺物が熊本大学構内から出土しているとは知らなかった、大変勉強になりました、というものであった。今回のようなケースは熊本大学の発掘調査成果や埋蔵文化財調査センターの業務内容を知ってもらうのにはよい機会であり、展示の開催の重要性が改めて認識されたとと言える。

(出典：「紫熊祭展示 実施報告」)

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

- ・文学部歴史学科考古学専攻学生を技能補佐員として雇用し、実測や発掘調査の技術指導を行い、実測技術が向上した。
- ・埋蔵文化財調査センターで保管している資料を活用して、文学部歴史学科考古学専攻学生の卒業論文を完成させた。

(資料番号 E-1) 教育研究支援活動実績 (36 頁参照)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ・計画によるもの以外に、要請に応じて多岐におよぶ手段を用いて、教育研究支援を行っているため。
- ・文学部歴史学科考古学専攻学生を技能補佐員として雇用し、実測能力が向上したため。
- ・文学部歴史学科考古学専攻学生の卒業論文作成を支援したため。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

- ・展示室での常設展を整備し、学内メールで教職員に周知し、授業などでの埋蔵文化財調査センターの活用を推進した。
- ・また毎月 1 回定例開催しているセンター会議において教育研究支援活動の報告および分析を行っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 授業等での展示室の活用は推進途上にあるが、実施した教育研究活動はセンター会議で報告し、改善に取り組んでいるため。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 I 大学の目的に照らして、教育研究支援活動が適切に行われ、成果を上げていること。

- ・平成 23 年 9 月以前の埋蔵文化財調査室の要項には、埋蔵文化財活用した教育研究支援は含まれておらず、教育研究支援は対象外であった。
- ・平成 23 年 10 月以降、埋蔵文化財調査センターの組織の設置目的として、出土した埋蔵文化財を記録、保存及び活用し、もって本学の教育研究に寄与することを目的とすると明記されており、「重要な質の変化あり」と判断することができる。
- ・平成 24・25 年度は文学部歴史学科考古学専攻学生を技能補佐員として雇用し、実測や発掘調査の技術指導を行った。平成 25 年度は同考古学専攻学生の卒業論文作成への資料貸出を実施した。質の向上度に関しては、改善・向上していると判断される。

(資料番号 C-1) 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (14・15 頁参照)

(資料番号 C-7) 熊本大学埋蔵文化財調査室要項 (25 頁参照)

VI 男女共同参画に関する自己評価書

## 1. 男女共同参画（その他の領域）の目的と特徴

本学の掲げる「男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」を基本方針とする。

特徴は以下のとおりである。

- (1) 教育・研究及びそれを取り巻く就労環境の整備
- (2) 男女共同参画社会形成のための人材育成
- (3) 男女共同参画社会形成のための教育・研究の充実

[想定する関係者とその期待]

・想定する関係者

本センター教員

・その期待

男女が互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を十分に発揮することができる職場環境を実現すること。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

本センターの構成員4名（センター長、准教授、助教2名）のうち、女性は2名で5割を占めている。学内では女性の多い職場である（平成26年9月30日現在）。

【改善を要する点】

とくにない。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

観点 男女共同参画基本方針等の趣旨に照らし、男女共同参画の取組を実施しているか。

(観点に係る状況)

女性が構成員の5割以上を占める。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

男女共同参画を実現している。

(資料番号 F-1-1) 女性の多い職場の状況(1)

	女性		男性		女性数	男性数
	センター長 (室長)	助教	准教授	助教		
平成22年度	1	1	1		2	1
平成23年度	1	1			2	
平成24年度	1	1	1		2	1
平成25年度	1	1	1	1	2	2

(出典：『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』17～19)

(資料番号 F-1-2) 女性の多い職場の状況(2)

1 埋蔵文化財調査センター組織

<センター長>

(併・文学部教授)

木下 尚子(2011.10.1～)

<専任教員>

松田 光太郎

(併・文学部助教)

大坪 志子

(出典：「2012年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報2012年度』)

## 熊本大学埋蔵文化財調査センターの教員の公募

熊本大学埋蔵文化財調査センターは、大学構内のほぼ全ての施設を対象に、その整備に伴って生じる埋蔵文化財の発掘調査を主要な業務として、平成23年10月1日に設置されました。

本センターでは、埋蔵文化財の発掘調査に関する業務を行うことの出来る人材を次により求めます。

公募人員	助教 1名 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 構内遺跡の発掘調査（報告書作成を含む）において、高いレベルの能力に依り調査を正確に実施し、迅速かつ円滑に遂行する力量をもつ人材</li> <li>・ 出土した遺物を保存・保管し、これを地域の文化財として学内外において活用する能力をもつ人材</li> </ul> </div>
所 属	埋蔵文化財調査センター
専門分野	考古学、歴史学などの文化財の発掘調査に係る分野
職務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①発掘調査の実施計画の立案及び実施に関すること</li> <li>②発掘調査報告書の作成に関すること</li> <li>③出土した埋蔵文化財の整理保管及び保存に関すること</li> <li>④その他センターの目的を達成するために必要な業務に関すること</li> </ul>
担当授業科目	学部専門科目、大学院専門科目および教養教育科目を担当することがある
応募資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>①大学の構内遺跡を発掘調査する能力をもつこと</li> <li>②修士の学位を取得済みあるいはそれに準ずる能力をもつこと</li> <li>③博物館法第5条に定める学芸員の資格を有すること</li> </ul>
任 期 等	任期5年（再採用可）
着任時期	平成25年10月1日以降のできるだけ早い時期
給与・諸手当	国立大学法人熊本大学職員給与規則による
提出書類	<ul style="list-style-type: none"> <li>①履歴書（市販のもので可。取得学位を明記し、写真貼付。連絡先に自宅及び勤務先の電話番号、電子メールアドレス記入。なお、男女を問わず、出産、育児、介護に専念（あるいは従事）した期間について考慮することを希望される場合は、付記すること）</li> <li>②埋蔵文化財発掘業務の実績及び業績リスト（査読付専門誌論文、国際会議論文、報告書、紀要、解説、著書、講演等に区分すること。報告</li> </ul>

書については担当項目、ページ数を明記すること。)

③主要業績1編(別刷りまたはコピー可)

④大学の埋蔵文化財発掘調査に対する考えと抱負(A4用紙に2000字程度)

※主要業績を除き提出書類は原則返却いたしません。また、提出書類に含まれる個人情報、本人事選考のみに使用し、他の目的には一切使用しません。

応募締切

平成25年7月16日(火) (必着)

封筒に「埋蔵文化財調査センター教員応募書類」と朱書き、簡易書留にて郵送願います。

選考方法

第一次選考 書類審査 平成25年7月中旬の予定

第二次選考 面接及びプレゼンテーション 平成25年7月下旬の予定  
(於:熊本大学(熊本市))

※結果については、応募者本人宛て連絡いたします。なお、第二次選考に係る旅費等については、応募者の自己負担となります。

書類送付先

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1

国立大学法人熊本大学運営基盤管理部施設企画ユニット

TEL:096-342-3215(直通) E-mail:sis-somu@jimu.kumamoto-u.ac.jp

問合せ先

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2-39-1

熊本大学埋蔵文化財調査センター長 木下 尚子

TEL:096-342-2446(直通) E-mail:kinon@gpo.kumamoto-u.ac.jp

その他

①本学では、就業規則により、教員の定年は65歳と定められております。

②熊本大学は男女共同参画を推進しています。

(詳細はホームページをご覧ください。)

<http://gender.kumamoto-u.ac.jp>

選考にあたっては、男女共同参画社会基本法の精神に則り、適正に行います。

(出典:「助教募集要項」平成25年度)

## 4. 質の向上度の分析及び判定

## (2) 分析項目

本センター発足時（平成23年）には、3名（センター長、准教授、助教）中2名が女性で、女性が6割を占めていた。現在はその割合が5割になっており、よりバランスのとれた構成になっていることから、質を維持していると判断する。

（資料番号 F-2） 平成24年の女性の占める割合

## 跋 文

埋蔵文化財調査センター初年度の実質の活動は、新任の松田光太郎准教授を筆頭に、大坪志子助教、石丸恵利子技術補佐員、村田知聖事務補佐員の4人が担った。松田准教授は財団法人かながわ考古学財団調査研究部で20年近く発掘調査に携わられた縄文時代の研究者である。この度初めて九州に来られ、中九州の火山灰土と白川の堆積土、夏の暑さ、そして現場の肥後弁に慣れるまでご苦労があったことと思う。これを大坪・石丸両氏がよく支えてくれた。9月から半年間は、熊本県の発掘調査現場で活躍されていた多賀晴司さんが技術補佐員として入ってくださった。学長裁量経費による報告書作成作業は、発掘調査に多くの時間を割かねばならなかった影響で難渋したが、大坪助教と石丸技術補佐員のガンバリで完成した。皆の労をねぎらいたい。

埋蔵文化財調査室からセンターへの改組をまたいで、発掘調査の後方支援をしてきた村田知聖事務補佐員が、春を限りに退職された。周到な配慮でセンターの業務を推進した功績は大きい。5年間、まことにご苦労さまでした。

石丸技術補佐員は、担当された発掘調査を完遂し、大部の報告書を完成して3月に任期を満了された。臨床医学教育研究センターの近代遺跡が明らかにした庶民生活の姿は貴重である。深甚なる謝意を表したい。

さて、熊本大学は文部科学省の女性研究者支援モデル育成事業に採択され、男女共同参画への取り組みを推進中という。昨年のわがセンターの状況をみると、現場で指揮をとる発掘調査を主要な業務とする者の75%は女性である。これほど女性の活躍する職場は本学でトップクラスであろう。松田准教授には初めての九州でご苦労も多いことと察するが、この職場の舵取りをどうかよろしく願いたい。

新たな組織とはいえ、センターには激動の1年であった。

2014年1月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授 木下尚子

（出典：「跋文」『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』19 63頁）

Ⅶ 管理運営に関する自己評価書

## 1. 管理運営の目的と特徴

本センターの以下の業務の円滑な実現を目的とする。

- (1) 埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施。
- (2) 出土した埋蔵文化財の整理、保管及び保存。
- (3) 発掘調査報告書ならびに年報の定期的刊行。
- (4) 適切な安全衛生管理の実現。
- (5) 運営委員会の適切な開催。

### 特徴

- (1) 運営基盤管理部施設企画ユニットと連携して学内再開発を円滑に進めると同時に埋蔵文化財の保護と活用を図る点
- (2) 文化財保護法に則り、熊本県ならびに熊本市の文化財担当者の指示のもとに事業を実現する点
- (3) 学術的価値のある調査成果が期待されている点

### [想定する関係者とその期待]

想定する関係者：本学に在籍する学生、勤務する職員、地域社会の一般市民

その期待：本学で学ぶ学生の学習環境ならびに勤務する職員の職場環境の改善のための再開発等の工事に先立ち、必要と認められた場合は埋蔵文化財を発掘調査して工事を速やかに実現させること。その学術的成果を学生および職員に還元すること。

## 2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

### 【優れた点】

- ・管理運営のための組織及び事務組織は、センター長と准教授を中心に適切な規模と機能を持っている。
- ・年度ごとに埋蔵文化財調査センター運営委員会を開催し、月ごとに埋蔵文化財調査センター会議を開催することにより、構成員ほか学内関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されている

### 【改善を要する点】

1年を通して発掘調査が多いため、埋蔵文化財調査センター会議が5時半以降にしか開催できない点。学内の施設整備事業が相次いでおり、発掘調査が急がれるなかで、考古学的重要資料の出土が続いているが、限られたスタッフで要請に応じている。発掘資料展や現場見学会など、発掘調査結果を社会的に公開し、本学敷地の考古学的魅力について学内外の関心を集めている。

## 3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

管理運営は、センター長と准教授が分担して担っている。事務組織は、運営基盤管理部施設企画ユニット事務担当者が担当している。人事は全学共同教育研究施設等人事委員会が担当している。平成23年10月1日に埋蔵文化財調査室から埋蔵文化財調査センター

に改組された。危機管理については、緊急連絡網を整備し、警備システム（Q ネット）を導入している。さらに情報セキュリティ担当職員を配置している。安全管理については、化学物質取扱報告書および毒物劇物保有状況一覧表を本学環境安全センターに提出し、定期的な点検ではその都度対応している。全学の防災訓練に参加している。現場作業の安全管理では、調査員は足場の組立て等作業主任者技能講習・地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習を受け現場ではヘルメットの着用を義務づけ、作業時の安全第一を心がけている。研究不正防止では全学のネット講習を受けルールの周知に努めている。経理の不正防止については、学内ルールに則って不正防止に努めている。

（水準）期待される水準にある。

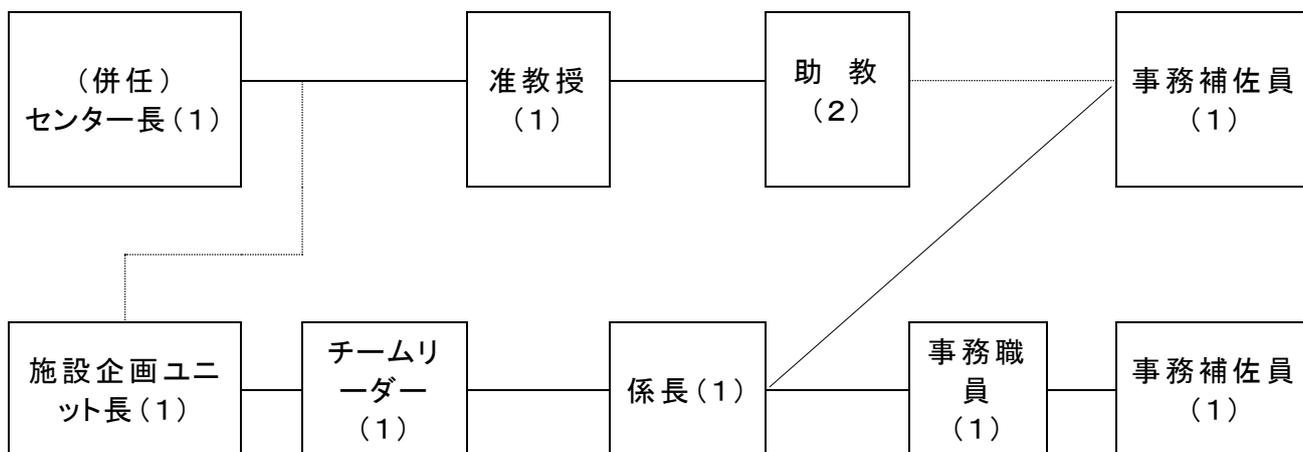
（判断理由）

状況に応じて生じる業務の多い発掘調査事務においては、事務担当者に過剰な負担がかかっているが、事業量が通常の場合には、適切に機能している。危機管理体制については緊急連絡網を整備し警備システムを導入し、情報セキュリティ担当職員を配置しており、整備されていると判断される。安全管理については、学内の方針に従って対応し、発掘調査現場においても法的な安全基準を遵守し必要な講習を受けており、整備されていると判断できる。

（資料番号 C-1） 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 （14・15 頁参照）

（資料番号 Z-1-1）

平成 26 年 3 月 31 日現在、埋蔵文化財調査センターの構成員は、（併任）センター長 1 名、専任教員 3 名、事務補佐員 1 名であり、機構図は以下のとおりである



(資料番号 Z-1-2) 熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会開催記録  
平成 24 年度

- 第 1 回 平成 24 年 4 月 19 日
- 第 2 回 平成 24 年 10 月 31 日
- 第 3 回 平成 25 年 3 月 1 日

平成 25 年度

- 第 1 回 平成 25 年 4 月 25 日

(出典：「センター運営委員会開催記録」)

観点 構成員（教職員及び学生）、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

運営委員会を設置している。(資料番号 Z-1-2)

埋蔵文化財調査センター会議を開催している。(資料番号 Z-1-3)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

二つの会議を定期的で開催し、管理運営に関する意見やニーズを把握し、適切な形で管理運営に反映している。運営委員会は、学内に建物をもつ各組織の代表者から構成され、代表者の組織ごとに管轄する地の埋蔵文化財に関する意見やニーズを把握できるようになっている。(文学部、教育学部、法学部、大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科、大学院自然科学研究科、大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院、大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系、運営基盤管理部施設管理ユニット)。平成 24 年度には運営委員会で出された意見に基づき、報告書未刊行分の経費を学長裁量経費として要求し、これが承認されて 3 年計画のもとに刊行作業を始めた。報告書刊行事業は運営委員会で最優先と認識されている事業であり、これによってセンターの報告書刊行事業は格段に安定した。

(資料番号 C-1) 熊本大学埋蔵文化財調査センター規則 (14・15 頁参照)。

(資料番号 Z-1-3) 熊本大学埋蔵文化財調査センター会議開催記録

平成 24 年度

- 第 1 回 平成 24 年 4 月 9 日
- 第 2 回 平成 24 年 5 月 7 日
- 第 3 回 平成 24 年 6 月 4 日
- 第 4 回 平成 24 年 7 月 20 日
- 第 5 回 平成 24 年 7 月 27 日(臨時)
- 第 6 回 平成 24 年 7 月 30 日(臨時)
- 第 7 回 平成 24 年 8 月 29 日
- 第 8 回 平成 24 年 11 月 5 日
- 第 9 回 平成 24 年 12 月 13 日
- 第 10 回 平成 25 年 1 月 7 日
- 第 11 回 平成 25 年 1 月 18 日
- 第 12 回 平成 25 年 2 月 13 日
- 第 13 回 平成 25 年 3 月 15 日

平成 25 年度

- 第 1 回 平成 25 年 4 月 19 日

第2回 平成25年5月17日  
第3回 平成25年7月4日  
第4回 平成25年8月30日  
第5回 平成26年1月17日  
第6回 平成26年2月19日  
第7回 平成26年3月13日

(出典：「センター会議議事録」)

(資料番号 Z-1-4) 学長裁量経費の平成 24 年度予算配分について (通知)

平成24年8月1日

埋蔵文化財調査センター長 殿

学 長

平成 2 4 年度 学長裁量経費の予算配分について (通知)

標記のことについて、下記のとおり通知します。

なお、執行にあたっては、本経費の趣旨・目的を考慮し、適正且つ計画的な執行に努めるとともに、十分な成果が上がるよう、よろしくお取り計らい願います。

また、戦略的経費の検証に係る自己点検報告書の提出時期、対象事業等については、改めて通知することを申し添えます。

記

事業等名称	予算配分額 (千円)	備 考
熊本大学構内埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務 【埋蔵文化財調査センター】	2,959	

「出典：平成 24 年度学長裁量経費の予算配分について (通知)」

(資料番号 Z-1-5) 学長裁量経費の平成 25 年度予算配分について (通知)

平成25年3月28日

埋蔵文化財調査センター長 殿

学 長

平成 2 5 年度 学長裁量経費の予算配分について (通知)

標記のことについて、下記のとおり通知します。

- なお、執行にあたっては、本経費の趣旨・目的を考慮し、適正且つ計画的な執行に努めるとともに、十分な成果が上がるよう、よろしくお取り計らい願います。
- また、戦略的経費の検証に係る自己点検報告書の提出時期、対象事業等については、改めて通知することを申し添えます。

記

※予算配分予定日：平成 2 5 年 4 月 1 日

事業等名称	予算配分額 (千円)	学 長 コ メ ン ト
熊本大学構内埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務 【埋蔵文化財調査センター】	3,010	事業の重要性に鑑み、要求額どおり措置する。 所定の報告書作成事業を確実かつ速やかに進めて いただくことを期待する。

担当：経営企画本部《秘書担当》 勇崎 (3206) 坂哉 (3113)

「出典：平成 25 年度学長裁量経費の予算配分について (通知)」

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

学内で開催される研修(平成25年4月17日の薬品管理支援システム操作説明会、平成26年8月5日の部局システム管理責任者等研修・情報セキュリティ指導コース)への出席を行っている。センターでは月ごとの定例の会議において、管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、問題点があれば随時話し合い、管理運営に関わる職員の資質の向上にむけて改善策を話し合っている。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

研修等に適切に参加し、管理運営に関わる職員の資質の向上のために日常的に取り組んでいる。

(資料番号 Z-1-2)

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

埋蔵文化財調査センター運営委員会

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

毎年の運営委員会において、活動の総合的な状況に関する自己点検をし、評価を受け、この委員会が本センターを継続的に改善するための体制として機能している。

(資料番号 Z-2) 熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会記録

平成24年度 第1回埋蔵文化財調査センター運営委員会議事要録

日時：平成24年4月19日(木) 11時10分～12時20分

場所：工学部1号館 2階 共用会議室B

出席者：木下 尚子(議長)、松田光太郎、大坪 志子、杉井 健、黨 武彦、安仁屋 勝、  
伊東 龍一、黒崎 博雅、栗木 浩

欠席者：大澤 博明、平井 俊範、宇宿功市郎

○議長挨拶及び新任委員の紹介

議長から、審議に先立ち挨拶が行われた後、熊本大学埋蔵文化財調査センター規則の照会が行われた。引き続き、埋蔵文化財調査センター運営委員会委員名簿に基づき、新任の委員が紹介され、新任の委員から自己紹介が行われた。

(議事)

1. 平成24年度埋蔵文化財調査センター予算配分(案)について

議長から、平成24年度埋蔵文化財調査センター予算配分については、平成23年度埋蔵文化財調査センター(旧埋蔵文化財調査室)運営費実績について関連があるため、資料5に基づき、報告を行った後、本年度の予算配分について説明願いたい旨の発言があり、大坪委員から説明が行われた。

意見交換は、以下のとおりである。(◇は委員からの質問・意見等、◆はそれに対する回答)

◇平成23年度の特別予算措置については、何処から支弁された予算なのか。

◆工事に係る必要な予算であるとして、事務局に要求して予算措置されたものである。

◇施設部の工事費か何か。

◆事務局に要求して予算措置されたものである。

次いで、資料1に基づき、平成24年度埋蔵文化財調査センター予算配分について松田委員から説明が行われ、審議の結果、委員会として報告書作成費までを含めて予算化していただくことを表明することとし、原案のとおり了承された。

意見交換は、以下のとおりである。(◇は委員からの質問・意見等、◆はそれに対する回答)

◇不足額については、今後出てきたところで組み直すのか。

◆調査費(整理費)については、発掘調査費と同様に別予算から確保していただけるよう要求する。

◇調査センターとして、調査して報告書が出せないということは問題だと思う。調査・報告書まで

一体として予算の在り方を考える必要がある。報告書がないと調査をやらなかったのと等しいことにならないのではないか。

◆報告書作成費の予算化については事務局と相談しながら、学長裁量経費や特別経費を要求していきたいと思う。

◇事務局と相談して進めていくとはどうゆうことなのか。予算の承認について委員会です承るのであれば、委員会としての方向性で要求すべきではないか。報告書作成費を別途予算化していくことを方向付けないと毎年度繰り返しになる。

◆埋蔵文化財調査センターと事務局で報告書作成予算要求の原案を作り、運営委員会にはかって学長に要求することにする。

## 2. 「発掘調査報告書」刊行スケジュールについて

議長から、発掘調査報告書の刊行スケジュールについて説明願いたい旨の発言があり、資料2に基づき、大坪委員から説明が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

## 3. 平成24年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定について

議長から、平成24年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定について説明願いたい旨の発言があり、資料3に基づき、事務局から説明が行われ、審議の結果、原案のとおり了承された。

意見交換は、以下のとおりである。(◇は委員からの質問・意見等、◆はそれに対する回答)

◇掘削予定の深さが違うのは何を基準にしているのか。

◆工事の内容等により掘削の深さは変わってくる。

◇建物を建てる際に基礎部分は調査しているのではないか。また行う必要があるのか。

◆新たな建物を建てる際には基礎部分の位置が変わってくる。

◆調査室が平成6年に設置されており、それ以前に建てられた建物等については調査せずに建てられており、基礎と基礎との間に残っているため、調査が必要である。

(報告)

## 1. 平成23年度埋蔵文化財発掘調査結果について

議長から、平成23年度埋蔵文化財発掘調査結果について報告願いたい旨の発言があり、大坪委員から、プロジェクターを用いて、具体的な事例の報告が行われた。

意見交換は、以下のとおりである。(◇は委員からの質問・意見等、◆はそれに対する回答)

◇近現代の墓は、誰につながっているか分かるのか。

◆分からない。

## 2. 平成23年度埋蔵文化財調査センター運営費実績について

議事1「平成24年度埋蔵文化財調査センター予算配分(案)について」において報告済み。

(その他)

杉井委員から、平成24年4月18日開催の文学部教授会において、松田委員（センター准教授）が文学部教授会に所属するという要望書が提出された件について、確認したい旨の発言があった。

意見交換は、以下のとおりである。（◇は委員からの質問・意見等、◆はそれに対する回答）

◇本委員会の承認を得ていない状態で、センター長名で出されるのは手順が違うと思う。本委員会で議決を得る必要があるのではないか。文学部教授会の決定が不安である。

◆事務局に相談した。

◇センターとしての組織になってから議論していないと思う。昨日の議論がどうなったかによっては、松田先生が宙ぶらりんになってしまうのではないか。

◇本委員会の議決が必要ではなかったか不安である。

◆委員会の審議事項について確認を行う。

◆松田先生の手続きについて確認した結果については、メール会議又は本委員会の開催が必要か。

◇正しい手続きであればそれで構わない。ちょっと不安だったので。

◆確認した上で、議長と相談させていただきます。

以上

#### 配付資料

参考1	埋蔵文化財調査センター運営委員会委員名簿
参考2	熊本大学埋蔵文化財調査センター規則
資料1	平成24年度埋蔵文化財調査センター予算配分及び要求案
資料2	埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書刊行予定表
資料3	平成24年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事予定一覧（案）
資料4	平成23年度埋蔵文化財発掘調査結果一覧
資料5	平成23年度埋蔵文化財調査センター関連予算の支出実績

（出典：「平成24年度 第1回熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会議事要録」）

松田准教授の文学部教授会参加の承認については、手続き上問題なく（運営委員会の承認は不要である）、現在松田准教授は文学部教授会に参加を認められている。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点到に係る状況）

文化財散歩、展示、教育研究支援活動時に実施するアンケート調査を実施している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

アンケート調査結果を集計・分析している。

（資料番号 C-6） 地下と地上の文化財散歩の記録（22・23 頁参照）

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

（観点到に係る状況）

センター会議における報告と検討により、評価結果がフィードバックされ、改善に反映されている。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

アンケート内容を本センター会議で報告し、問題点の改善をはかっている。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。（教育情報の公表）

観点 目的（学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。）が適切に公表されるとともに、構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点到に係る状況）

大学周辺の地域史の理解促進と埋蔵文化財保護精神の普及を目的として、埋蔵文化財調査センターで常設展示を実施している。

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

周知されており、見学者がいる。

（資料番号 Z-3） 展示室の展示状況



（出典：埋蔵文化財調査センター展示室写真）

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

入学者受入を実施していないので、該当しない。

(水準)

(判断理由)

観点 教育研究活動等についての情報(学校教育法施行規則第172条に規定される事項を含む。)が公表されているか。

(観点に係る状況)

・研究活動の成果として『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』および『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』を作成し、全国358機関に配布。また熊本大学附属図書館にてリポジトリを掲載している。

・調査成果を簡潔にまとめた『地下の文化財(黒髪地区)』、『同(本荘地区)』を刊行・一般配布し、成果を公表している。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

研究活動の成果を複数の手段で広く公表しているため。

(資料番号 Z-4) 刊行物配布先リスト

	所属部署	住所 1
札幌国際大学	人文学部現代文化学科	北海道札幌市清田区清田4-1
南部町教育委員会社会教育課	史跡対策室	青森県三戸郡南部町大字沖田面字沖中46
函館市教育委員会	生涯学習部文化財課埋蔵文化財担当	北海道函館市東雲町4番13号
北海道大学文学部	北方文化論講座	北海道札幌市北区北十条西7丁目
北海道大学	埋蔵文化財調査室	北海道札幌市北区北11条西7丁目
北海道教育庁	生涯学習部文化課	北海道札幌市中央区北3条西7丁目
札幌大学	先史人類学・人類学講座	札幌市豊平区西岡3条7丁目3-1
(財)北海道埋蔵文化財センター	普及活用課	北海道江別市西野幌685番地1
	紋別郡遠軽町教育委員会	北海道紋別郡遠軽町1条通北3丁目
国立国会図書館 収集書誌部	国内資料課 収集第二係	東京都千代田区永田町1-10-1
文化庁	文化財部記念物課	東京都千代田区霞ヶ関3丁目2番2号
明治大学	図書館総務事務局雑誌受入担当 (博物館)	東京都千代田区神田駿河台1-17カ' ミ-301地下1階
法政大学	文学部考古学研究室	東京都千代田区富士見2-17-1
上智大学	文学部史学研究室	東京都千代田区紀尾井町7-1
慶應義塾大学	文学部民族考古学研究室	東京都港区三田2-15-45
東京国立博物館	学芸部考古課原史室	東京都台東区上野公園13-9
東京大学	文学部考古学研究室	東京都文京区本郷7-3-1
立正大学	文学部考古学研究室	東京都品川区大崎4-2-16
青山学院大学	文学部史学研究室	東京都渋谷区渋谷4-4-25
国学院大学	文学部考古学研究室	東京都渋谷区東4丁目10-28
駒澤大学	文学部歴史学科考古学研究室	東京都世田谷区駒澤1-23-1
早稲田大学	文学部考古学資料室	東京都新宿区戸山1-24-1
首都大学東京都市教養学部	人文・社会学系考古学教室	東京都八王子市南大沢1-1
千葉大学	文学部考古学研究室	千葉県稲毛区弥生町1-33
	東北アジア古文化研究所	千葉県船橋市丸山4-23-14
国立歴史民俗博物館	資料図書係	千葉県佐倉市城内町117
筑波大学	歴史人類学専攻	茨城県つくば市天王台1丁目1-1
	蕨市立歴史民俗資料館	埼玉県蕨市中央5-17-22
早稲田大学	教務部本庄考古資料館	埼玉県本庄市栗崎214
	明治大学黒耀石研究センター	長野県小県郡長和町大門3670-8
	長野県埋蔵文化財センター	長野県長野市篠ノ井布施高田963-4
静岡大学	人文学部考古学研究室	静岡市大谷836
名古屋大学	文学部考古学研究室	愛知県名古屋市中千種区不老町
南山大学	人類学博物館	愛知県名古屋市昭和区山里町18
	愛知県埋蔵文化財センター	愛知県海部郡弥富町前ヶ須新田字野方802-24
(財)大阪府博物館協会	大阪文化財研究所	大阪府大阪市中央区法円坂1丁目1-357カ'カ' 1 法円坂6階
三重大学	文学部考古学研究室	三重県津市栗真町屋町1577
松阪市教育委員会	文化財センター-嬉野整理事務所	三重県松阪市嬉野下之庄町711-1
	滋賀県埋蔵文化財センター	滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2
大阪大学	大学院文学研究科考古学研究室	大阪府豊中市待兼山町1-5
大阪大学	文学部埋蔵文化財調査室	大阪府豊中市待兼山町1-5
関西大学	文学部考古学研究室	大阪府吹田市山手町3-3-35
国立民族学博物館	文献図書係	大阪府吹田市千里万博記念公園内10-1
	高槻市立埋蔵文化財調査センター	大阪府高槻市南平台5丁目21-1
	高槻市立今城塚古代歴史館	大阪府高槻市郡家新町48番8号
公益財団法人大阪府文化財センター	調査部調査グループ資料室	大阪府東大阪市長田東1丁目9番16号
東大阪市教育委員会	文化財課	大阪府東大阪市荒北50-4
堺市文化財調査事務所	堺市市長公室文化部文化財課分室	大阪府堺市南区福葉1丁目3142
	泉南市埋蔵文化財センター	大阪府泉南市信達大苗代374-4
	大阪府弥生文化博物館	大阪府和泉市池上町4丁目8-27
龍谷大学	文学部考古学研究室	京都府京都市下京区七条通大宮東入大工町125-1
同志社大学	文化学科考古学研究室	京都市上京区今出川通烏丸東入
立命館大学文学部	日本史学専攻考古学研究室	京都市北区等持院北町56-1
京都文化博物館	資料課	京都市中京区三条高倉上ル東片町623-1
京都大学	文学部考古学研究室	京都市左京区吉田本町
京都大学	文化財総合研究センター	京都市左京区吉田本町
国際日本文化研究センター	資料利用係	京都市西京区御陵大枝山町3丁目2
公益財団法人	京都府埋蔵文化財調査研究センター	京都府向日市寺戸町南垣内40-3
公益財団法人	向日市埋蔵文化財センター	京都府向日市鶏冠井町上古23
(財)元興寺文化財研究所	人文考古学研究室	奈良市中院町11
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所	埋蔵文化財センター	奈良市二条町2丁目9-1
帝塚山大学	考古学研究所	奈良市帝塚山7丁目1-1
奈良大学文学部	文化財学科	奈良市山陵町1500
天理大学文学部	歴史文化学科考古学・民俗学研究室	奈良県天理市袖之内町1050
	奈良県立橿原考古学研究所	奈良県橿原市欽傍町1
公益財団法人	和歌山県文化財センター	和歌山市湊571-1
和歌山県教育庁	生涯学習局文化遺産課	和歌山市小松原通1-1
海南市教育委員会	生涯学習課文化振興係	和歌山県海南市下津町丸田217-1
	神戸市埋蔵文化財センター	兵庫県神戸市西区梶台6丁目 西神中央公園内
芦屋市教育委員会	生涯学習課文化財担当	兵庫県芦屋市精道町7-6
伊丹市教育委員会	生涯学習部社会教育課	兵庫県伊丹市千僧1丁目1番地
兵庫県立考古博物館	埋蔵文化財調査部	兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1
	鳥取県埋蔵文化財センター	鳥取県鳥取市国府町宮下1260
鳥取大学	地域学部考古学研究室	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101
鳥取県教育委員会事務局	妻木晩田遺跡現地事務所	鳥取県西伯郡大山町妻木1115-4
鳥根県立八雲立つ風土記の丘	資料館	鳥根県松江市大庭町456
	鳥根県埋蔵文化財調査センター	鳥根県松江市打出町33
(財)松江市教育文化振興事業団	埋蔵文化財課	鳥根県松江市鳥根町加賀1263-1
	鳥根大学ミュージアム	鳥根県松江市西川津町1060
鳥根大学	法文学部考古学研究室	鳥根県松江市西川津町1060
安来市教育委員会	教育総務課	鳥根県安来市伯太町東里580

熊本大学埋蔵文化財調査センター 分析項目Ⅱ・Ⅲ

	考古学研究会	岡山市清心町16-37 長井ビル201
岡山大学	文学部考古学研究室	岡山市北区津島中3-1-1
岡山大学	埋蔵文化財調査研究センター 岡山県古代吉備文化財センター	岡山市北区津島中3丁目1-1 岡山市西花尻1325-3
	岡山県立博物館	岡山市後楽園1-5
	津山弥生の里文化財センター	岡山県津山市沼600-1
	財団法人倉敷考古館	岡山県倉敷市中央1丁目3-13
矢掛町教育委員会	教育課	岡山県小田郡矢掛町2677-1
	広島県立歴史博物館	広島県福山市西町2-4-1
府中市教育委員会	総務課文化財係	広島県府中市元町1-5
広島県立歴史民俗資料館	みよし風土記の丘	広島県三次市小田幸町122
(財)広島市未来都市創造財団	文化科学部文化財課	広島県広島市東区光町二丁目15番36号
(財)広島県教育事業団	埋蔵文化財調査室	広島市西区観音新町4丁目8-49
広島大学	文学部考古学研究室	広島県東広島市鏡山1-2-3
	広島大学埋蔵文化財調査室	広島県東広島市鏡山1-1-1特高受変電所内
梅光学院大学	地域文化研究所	山口県下関市向洋町1-1-1
下関市立大学	経済学部	山口県下関市大学町2-1-1
	下関市立考古博物館	山口県下関市大字綾羅木字岡454
	山口県埋蔵文化財センター	山口市春日町3-22
山口大学	人文学部考古学研究室	山口市大字吉田1677-1
山口大学	埋蔵文化財資料館	山口市大字吉田1677-1
	山口県立美術館	山口県萩市平安古586-1
土井ヶ浜遺跡	人類学ミュージアム	山口県下関市豊北町大字神田上891-8
	下関市島山民俗資料館	山口県下関市豊浦町大字川棚5180
	瀬戸内海歴史民俗資料館	香川県高松市亀水町1412-2
高松市教育委員会文化部	文化振興課円座整理事務所	香川県高松市円座町987-4
香川県埋蔵文化財センター	資料普及課普及啓発担当	香川県坂出市府中町字南谷5001番地4
	徳島県立博物館	徳島市八万町向寺山
徳島大学	総合科学部考古学研究室	徳島市南常三島町1-1
徳島大学医学部内	埋蔵文化財調査室	徳島市蔵本町2-50-1
徳島県教育委員会	文化財課	徳島市万代町1-1
	海陽町立博物館	徳島県海部郡海陽町四方原字杉谷73
(財)高知県文化財団	埋蔵文化財センター	高知県南国市篠原南泉1437-1
愛媛大学	埋蔵文化財調査室	愛媛県松山市道後樋又10-13
愛媛大学	法文学部考古学研究室	愛媛県松山市文京町3番
	(財)愛媛県埋蔵文化財調査センター	愛媛県松山市衣山4丁目68番地1
(財)松山市生涯学習振興財団	埋蔵文化財センター	愛媛県松山市南斎院町乙67-6
西予市教育委員会	文化体育振興課文化振興係	愛媛県西予市宇和町卯之町3丁目434番地1
荏田町教育委員会	生涯学習課文化係	福岡県京都郡荏田町富久町1丁目19-1
(財)北九州市芸術文化振興財団	埋蔵文化財調査室	福岡県北九州市小倉北区金田1-1-3
	北九州市立自然史・歴史博物館	福岡県北九州市八幡東区東田2丁目4-1
水巻町教育委員会	生涯学習課(水巻町歴史資料館)	福岡県遠賀郡水巻町古賀3丁目18番1号
芦屋歴史の里	歴史民俗資料館	福岡県遠賀郡芦屋町大字山鹿1200番地
鞍手町教育委員会	社会教育課社会教育係(文化財)	福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧2105番地
中間市教育委員会	生涯学習課	福岡県中間市中間1丁目1-1
新宮町教育委員会	社会教育課文化・図書館担当	福岡県糟屋郡新宮町大字下府425-1シーオーレ新宮内町立歴史資料館内
那珂川町教育委員会	社会教育課文化財担当	福岡県筑紫郡那珂川町後野1丁目5番1号(中央公民館内)
	宇美町立歴史民俗資料館	福岡県糟屋郡宇美町宇美1丁目1番22号
須恵町教育委員会	社会教育課	福岡県糟屋郡須恵町大字上須恵1180-1
志免町教育委員会	生涯学習課	福岡県糟屋郡志免町志免中央1丁目2番1号
	粕屋町立歴史資料館	福岡県糟屋郡粕屋町若宮1丁目1番1号
篠栗町教育委員会	社会教育課文化財係	福岡県糟屋郡篠栗町大字尾仲47-1
久山町教育委員会	教育課文化財保護係	福岡県糟屋郡久山町大字久原3632
古賀市教育委員会	複合文化施設古賀市歴史資料館 文化財係	福岡県古賀市中央2丁目13-1サンフレアこが2階
福津市教育委員会	古墳公園建設準備室	福岡県福津市津屋崎458-1
宗像市市民活動推進課	文化・スポーツ推進課係	福岡県宗像市大字東郷1丁目1番1号
岡垣町教育委員会	社会教育課社会教育係	福岡県遠賀郡岡垣町野間1丁目1番1号
遠賀町教育委員会	生涯学習課	福岡県遠賀郡遠賀町大字今古賀513
長崎県埋蔵文化財センター		長崎県杵岐市芦辺町深江鶴亀515-1
壱岐市教育委員会	文化財課	長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀515-1
	九州大学附属図書館雑誌情報係	福岡市東区箱崎6-10-1
九州大学大学院	人文科学研究院考古学研究室	福岡市東区箱崎6-19-1
九州大学	埋蔵文化財調査室	福岡市東区箱崎6-10-1
福岡市博物館	学芸課	福岡市早良区百道浜3-1-1
福岡大学	人文学部歴史学科考古学研究室	福岡市城南区七隈8-19-1
西南学院大学	文学部考古学・高倉研究室	福岡市早良区西新5-2-92
	福岡市埋蔵文化財調査センター	福岡市博多区井相田2-1-94
春日市教育委員会	文化財課	福岡県春日市岡本3丁目57番地「春日市奴園の丘歴史資料館」内
大野城市教育委員会	ふるさと文化財課文化財担当	福岡県大野城市曙町2-2-1
対馬市教育委員会	文化財課	長崎県対馬市美津島町難知甲1287番地1
	筑紫野市歴史博物館	福岡県筑紫野市二日市南1-9-1
	九州国立博物館	福岡県大宰府市石坂4-7-2
太宰府市教育委員会	文化財課	福岡県太宰府市大字観世音寺1-1-1
筑紫野市教育委員会	文化財課	福岡県筑紫野市二日市西一丁目1-1
九州大学	比較社会文化研究科	福岡県福岡市西区元岡744
糸島市教育委員会	文化課	福岡県糸島市志摩初30番地
	糸島市立伊都国歴史博物館	福岡県糸島市大字井原916
	飯塚市歴史資料館	福岡県飯塚市大字柏の森959-1
嘉麻市教育委員会	文化課	福岡県嘉麻市上臼井446-1
桂川町教育委員会・王塚装飾古墳館	社会教育課文化財振興係	福岡県嘉穂郡桂川町寿命376
飯塚市教育委員会	生涯学習部文化財課	福岡県飯塚市新立岩5番5号
直方市教育委員会	生涯学習課	福岡県直方市殿町7-1

熊本大学埋蔵文化財調査センター 分析項目Ⅱ・Ⅲ

福智町教育委員会	生涯学習課	福岡県田川郡福智町金田937番地2
糸田町教育委員会	社会教育課文化財係	福岡県田川郡糸田町2023-1
香春町教育委員会	生涯学習課	福岡県田川郡香春町大字高野987-1
宮若市教育委員会	社会教育課文化振興係	福岡県宮若市宮田7番地1
みやこ町歴史民俗博物館	生涯学習課文化係	福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
赤村教育委員会	教務課社会教育係	福岡県田川郡赤村大字内田1188
大任町教育委員会	社会教育課文化財係	福岡県田川郡大任町大字大行事3067
添田町教育委員会	生涯学習課	福岡県田川郡添田町大字添田2151
行橋市教育委員会	生涯学習課	福岡県行橋市中央1丁目1-1
川崎町教育委員会	田川市石炭・歴史博物館	福岡県田川市大字伊田2734-1 (石炭記念公園内)
	社会教育課	福岡県田川郡川崎町大字田原789-2
豊前市教育委員会	豊前市立埋蔵文化財センター	福岡県豊前市大字八屋1776-2番地
	教育課文化芸術係	福岡県豊前市大字吉木955
築上町教育委員会	生涯学習課	福岡県築上郡築上町船迫1342-22船迫窯跡公園
大刀洗町教育委員会	久留米市埋蔵文化財センター	福岡県久留米市諏訪野1830-6
	生涯学習課文化財係	福岡県三井郡大刀洗町大字富多819
大川市教育委員会	生涯学習課文化係	福岡県大川市大字酒見256-1
柳川市教育委員会	生涯学習課文化係	福岡県柳川市三橋町正行431
筑後市教育委員会	社会教育課	福岡県筑後市大字山ノ井898
広川町教育委員会	生涯学習課社会教育係	福岡県八女郡広川町大字新代1804-1
黒木町教育委員会	生涯学習課	福岡県八女郡黒木町桑原244-2
八女市役所	立花支所	福岡県八女市立花町大字原島95-1
八女市教育委員会	文化課文化財係	福岡県八女市大字本町647
大牟田市教育委員会	文化・スポーツ課	福岡県大牟田市黄金町1丁目34番地 (生涯学習支援センター)
朝倉市教育委員会	県立甘木歴史資料館	福岡県甘木市大字甘木娘田216-2
	文化課文化財係	福岡県朝倉市甘木198-1
九州歴史資料館	調査課	福岡県小郡市三沢5208-3
小郡市教育委員会文化財課	小郡市埋蔵文化財センター	福岡県小郡市三沢5147-3
筑前町教育委員会	教育課文化財係	福岡県朝倉郡筑前町篠隈246番地
東峰村教育委員会	教育課	福岡県朝倉郡東峰村小石原941-9
みやま市教育委員会	生涯学習課	福岡県三池郡みやま町高田町大字濃施480番地
うきは市教育委員会	生涯学習課文化財保護係	福岡県うきは市吉井町983-1
	佐賀市文化財資料館	佐賀県佐賀市本庄町本庄1121
	佐賀県立博物館	佐賀市内1-15-23
佐賀県教育庁	社会教育・文化財課	佐賀市内1-1-59
基山町教育委員会	生涯学習課生涯学習文化係	佐賀県三養基郡基山町大字宮浦666番地
鳥栖市教育委員会	生涯学習課文化財係	佐賀県鳥栖市宿町1118
吉野ヶ里町教育委員会	社会教育課文化財係	佐賀県神埼郡吉野ヶ里町吉田307 (中央公民館)
神埼市教育委員会	社会教育課文化財係	佐賀県神埼市千代田町直島166番地1
武雄市教育委員会	文化・学習課文化財係	佐賀県武雄市武雄町大字武雄5538-1
小城市教育委員会	佐賀県立九州陶磁文化館	佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙3100-1
	文化課	佐賀県小城市小城市253-21
多久市教育委員会	生涯学習課文化スポーツ係	佐賀県多久市北多久町大字小侍7-1
唐津市教育委員会	文化課文化財係	佐賀県唐津市南城内1-1大手ロセンタービル6階
	佐賀県立名護屋城博物館	佐賀県唐津市鎮西町大字名護屋1931-3
	末廬館	佐賀県唐津市菜畑3359-2
伊万里市教育委員会	生涯学習課文化財係	佐賀県伊万里市立花町1355-1
江北町教育委員会	生涯学習係	佐賀県杵島郡江北町大字山口1651-1
鹿島市教育委員会	生涯学習課文化係	佐賀県鹿島市納富分2700-1
長崎市教育委員会	文化観光部文化財課	長崎市魚の町5-1
五島市教育委員会	生涯学習課	長崎県五島市福江町1番1号
諫早市教育委員会	文化課	長崎県諫早市東小路町7番1号
雲仙市教育委員会	諫早市郷土館	長崎県諫早市西小路町774-1
	生涯学習課文化財班	長崎県雲仙市千々石町戊582番地
島原市教育委員会	社会教育課	長崎県島原市上の町537番地
大村市教育委員会	文化振興課	長崎県大村市吹島1-25
上五島町教育委員会	生涯学習課	長崎県南松浦郡新上五島町有川郷733
佐世保市教育委員会	小値賀町教育委員会	長崎県北松浦郡小値賀町吹郷2371
	社会教育課文化財係	長崎県佐世保市八幡町1-10
南島原市教育委員会	文化課	長崎県南島原市有馬町乙1023
松浦市教育委員会	文化財課	長崎県松浦市志佐町里免365番地
平戸市教育委員会	文化交流課	長崎県平戸市岩ノ上町1508番地
九州ルーテル学院大学	熊本市立熊本博物館	熊本市中央区古京町3-2
	人文学部人文学科	熊本市中央区黒髪3丁目12-16
熊本大学文学部	考古学研究室	熊本県熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
熊本市役所観光文化交流局	文化振興課埋蔵文化財調査室	熊本市中央区手取本町1-1
熊本市役所観光文化交流局	文化振興課植木出張所	熊本県熊本市北区植木町岩野238-1
山鹿市出土文化財管理センター	山鹿市教育委員会文化課文化財係	熊本県山鹿市方保田128
	歴史公園鞠智城温故創生館	熊本県山鹿市菊鹿町大字米原443-1
	熊本県立装飾古墳館	熊本県山鹿市鹿央町岩原3085
南関町教育委員会	教育課文化財係	熊本県玉名郡南関町大字関町1324
合志市教育委員会	生涯学習課 生涯学習班	熊本県合志市御代志1661-16
益城町教育委員会	生涯学習課 生涯学習係	熊本県上益城郡益城町大字宮園702番地
嘉島町教育委員会	西原村教育委員会	熊本県阿蘇郡西原村小森3259
	社会教育課	熊本県上益城郡嘉島町上島530
山都町教育委員会	社会教育係	熊本県阿蘇郡山都町今500
城南町教育委員会	社会教育課文化振興係	熊本県熊本市南区城南町舞原394-1
	熊本県文化財資料室	熊本県熊本市南区城南町大字沈目1667
	城南町歴史民俗資料館	熊本県熊本市南区城南町大字塚原1924番地
美里町教育委員会	教育課社会教育係	熊本県下益城郡美里町大字馬場1100
甲佐町教育委員会	社会教育課社会教育係	熊本県上益城郡甲佐町大字豊内613
	熊本市文化財資料室	熊本市南区浜口町124

熊本大学埋蔵文化財調査センター 分析項目Ⅱ・Ⅲ

上天草市役所 松島庁舎	文化振興係	熊本県上天草市松島町合津3294
天草市教育委員会	文化財課文化財保護係	熊本県天草市本渡町本戸馬場3080-1
荒尾市教育委員会	社会教育課文化係	熊本県荒尾市宮内出目390
	玉名市立歴史博物館こころピア	熊本県玉名市岩崎117
和水町教育委員会	社会教育課文化係	熊本県玉名郡和水町板桶76
八代市市民協働部	文化まちづくり課	熊本県八代市松江城町1-25
相良村教育委員会	社会教育係	熊本県球磨郡相良村大字深水2500-1
五木村教育委員会	社会教育係	熊本県球磨郡五木村甲2672-7
あさぎり町教育委員会	生涯学習課文化振興係	熊本県球磨郡あさぎり町免田東1989番地3
山江村教育委員会	社会教育係	熊本県球磨郡山江村大字山田甲1360番地
人吉市教育委員会	教育部歴史遺産課	熊本県人吉市麓町16
玉名市教育委員会	文化課	熊本県玉名市岱明町野口2129
玉東町教育委員会	社会教育課	熊本県玉名郡玉東町大字白木1-1
宇土市教育委員会	文化課	熊本県宇土市新小路町95番地
宇城市教育委員会	文化課文化財係	熊本県宇城市不知火町高良2273-1
菊陽町役場	生涯学習課文化財担当	熊本県菊池郡菊陽町大字久保田2800
大津町教育委員会	生涯学習課	熊本県菊池郡大津町引水62番地
菊池市教育委員会	生涯学習課文化振興係	熊本県菊池郡隈府865菊池市中央公民館
南阿蘇村教育委員会	社会教育課文化財係	熊本県阿蘇郡南阿蘇村大字吉田1495
阿蘇市教育委員会	教育課社会教育係	熊本県阿蘇市一の宮町宮地504-1
氷川町教育委員会	生涯学習課	熊本県八代郡氷川町島地642（氷川町文化センター内）
芦北町教育委員会	生涯学習課	熊本県葦北郡芦北町大字田浦町653
	大分県教育庁埋蔵文化財センター	大分市大字中判田字ビワノ内1977
大分市教育委員会	教育総務部文化財課	大分市荷揚町2番31号
中津市教育委員会	文化振興課文化財係	大分県中津市1385番地（殿町）中津市歴史民俗資料館内
上毛町役場	総合窓口課文化財保護係	福岡県築上郡上毛町大字東下1512番地
	大分県立歴史博物館	大分県宇佐市大字高森字京塚
豊後高田市教育委員会	社会教育課	大分県豊後高田市中真玉2144番地の12
国東市教育委員会文化財課	国東市歴史体験学習館	大分県国東市国東町大字安国寺1639-2
別府大学	附属博物館	大分県別府市北石垣82
別府市教育委員会	生涯学習課文化振興係	大分県別府市上野口1-15
臼杵市教育委員会	文化財課	大分県臼杵市大字臼杵72番の1
佐伯市教育委員会	文化振興課文化財係	大分県佐伯市中村東町6-9
日田市教育庁	文化財保護課	大分県日田市南友田町516-1
竹田市教育委員会	文化財課	大分県竹田市大字々々1650
宇佐市教育委員会	社会教育課文化財係	大分県宇佐市大字上田1030-1
杵築市教育委員会	生涯学習課文化振興・文化財係	大分県杵築市山香町大字野原1010-2
日出町教育委員会	生涯学習課	大分県速見郡日出町3891番地2
	豊後大野市歴史民俗資料館	大分県豊後大野市緒方町大字下自在172
	宮崎県総合博物館	宮崎県神宮2丁目4番4号
	みやざき歴史文化館	宮崎市大字芳土2258番地3
	宮崎県埋蔵文化財センター	宮崎市佐土原町下那珂4019
宮崎市教育委員会	文化財課	宮崎市橋通東1丁目14番20号
国富町教育委員会	社会教育課	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄4800
	宮崎県立西都原考古博物館	宮崎県西都市大字三宅西都原西5670番
西都市教育委員会	社会教育課文化財係	宮崎県西都市大字妻1241番地1 西都市歴史民俗資料館
延岡市教育委員会	文化課文化財係	宮崎県延岡市天神小路255-1
日向市役所	社会教育課文化係	宮崎県日向市本町10番5号
木城町役場	教育課社会教育係	宮崎県児湯郡木城町大字高城1227-1
都城市教育委員会	文化財課	宮崎県都城市葛蒲原町19-1
小林市教育委員会	社会教育課	宮崎県小林市大字細野300
日南市教育委員会	文化生涯学習課	宮崎県日南市中央通1-1-1
串間市教育委員会	文化係	宮崎県串間市大字西方6524番地58
川南町役場	社会教育課文化施設係	宮崎県児湯郡川南町大字川南13680番地1
新富町教育委員会	生涯学習課（中央公民館内）	宮崎県児湯郡新富町大字上富田7485-14
宮崎大学	教育文化学部考古学研究室	宮崎県宮崎市学園木花台西1-1
北郷町役場	生涯学習課	宮崎県南那珂郡北郷町大字郷之原乙1477
伊東記念館	（日南市教育委員会社会教育課）	宮崎県日南市鉄肥9丁目1-1
えびの市教育委員会	社会教育課	宮崎県えびの市大字大明司2146-2
高原町役場	社会教育課	宮崎県西諸県郡高原町大字西麓899
鹿児島大学	埋蔵文化財調査センター	鹿児島市郡元1-21-24
鹿児島大学	法文学部考古学研究室	鹿児島市郡元1丁目21-30
鹿児島国際大学	国際文化学部博物館実習施設	鹿児島市坂之上8-34-1
指宿市教育委員会	社会教育課 時遊館COCCOはしむれ	鹿児島県指宿市十二町2290番地
垂水市教育委員会	社会教育課	鹿児島県垂水市旭町61
西之表市教育委員会	社会教育課	鹿児島県西之表市西之表7585 種子島開発総合センター（鉄砲館）
屋久島町教育委員会	社会教育課	鹿児島県熊毛郡屋久島町安房187番地1
天城町教育委員会	社会教育課文化財係	鹿児島県天城町平士野2691-1
	伊仙町歴史民俗資料館	鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842
鹿児島市教育委員会	文化課	鹿児島市山下町6-1
肝付町教育委員会	生涯学習課歴史民俗資料館	鹿児島県肝付郡肝付町野崎1936番地
鹿屋市教育委員会	文化課センター	鹿児島県鹿屋市串良町岡崎2059
錦江町教育委員会	教育課生涯学習チーム	鹿児島県肝付郡錦江町城元963番地
	笠利町歴史民俗資料館	鹿児島県大島郡笠利町須野670
奄美市教育委員会	文化スポーツ振興課	鹿児島県奄美市名瀬幸町25-8
薩摩川内市教育委員会	文化課文化財係	鹿児島県薩摩川内市大小路町14-5
大口市教育委員会	生涯学習課	鹿児島県伊佐市大口2845-2
南九州市教育委員会	文化財課（ミュージアム知覧内）	鹿児島県南九州市知覧町郡17880
枕崎市教育委員会	文化課文化係	鹿児島県枕崎市山手町175番地
出水市教育委員会	生涯学習課	鹿児島県出水市文化町23
阿久根市教育委員会	生涯学習課文化係	鹿児島県阿久根市波留5800-1
いちき串木野市教育委員会	文化振興課	鹿児島県いちき串木野市湊町1丁目1番地

日置市教育委員会	社会教育課	鹿児島県日置市伊集院町郡1丁目100番地
南さつま市埋蔵文化財センター	(歴史交流館金峰内)	鹿児島県南さつま市金峰町池辺1535
	鹿児島県立埋蔵文化財センター	鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森2番1号
霧島市教育委員会	文化振興課文化財グループ	鹿児島県霧島市隼人町内山田一丁目11番11号
志布志市教育委員会	生涯学習課	鹿児島県志布志市有明町野井倉1756番地
曾於市教育委員会	埋蔵文化財センター	鹿児島県曾於市大隅町月野1946-1
沖縄県立博物館・美術館	博物館班	沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号
那覇市教育委員会	文化財課	沖縄県那覇市前島3-25-1
沖縄県教育庁	文化課記念物係	沖縄県那覇市泉崎1-2-2
沖縄国際大学	総合文化学部考古学研究室	沖縄県宜野湾市宇宜野湾2-6-1
豊見城市教育委員会	生涯学習部文化課	沖縄県豊見城市宇伊良波392
糸満市教育委員会	文化課文化財担当	沖縄県糸満市潮崎町1丁目1番地
南城市教育委員会	教育部文化課	沖縄県南城市大里字仲間807番地
宜野湾市教育委員会	文化課文化財保護係	沖縄県宜野湾市野嵩1丁目1-2
浦添市教育委員会	文化部文化課文化係	沖縄県浦添市安波茶1丁目1番1号
沖縄県立埋蔵文化財センター	調査班	沖縄県中頭郡西原町字上原193-7
琉球大学	法文学部考古学研究室	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
沖縄市教育委員会	沖縄市立郷土博物館 文化財係	沖縄県沖縄市上池2-19-6沖縄市文化センター3階
北谷町教育委員会	社会教育課文化係	沖縄県中頭郡北谷町字桑江226
恩納村	文化財係	沖縄県国頭郡恩納村字仲泊1656-8
	宜野座村立博物館	沖縄県宜野座村字宜野座232
うるま市教育委員会	文化課	沖縄県うるま市勝連平安名3047番地
名護市教育委員会	文化課	沖縄県名護市東江1丁目8番11号 名護博物館2階
宮古島市教育委員会	生涯学習振興課文化財係	沖縄県宮古島市城辺字福里600-1
	石垣市立八重山博物館	沖縄県石垣市登野城4-1
石垣市教育委員会	文化課文化財係	沖縄県石垣市美崎町16-6
美浜町教育委員会	文化財保護・町史編纂室	福井県三方郡美浜町金山14-1
金沢大学	文学部考古学研究室	金沢市角間町
富山大学附属図書館	情報管理課雑誌情報係	富山市五福3190
新潟大学	附属図書館	新潟市五十嵐二の町8050
福島大学	行政社会学部考古学研究室	福島市金谷川1
東北大学大学院	文学研究科考古学研究室	宮城県仙台市青葉区川内27番1号

(出典：「刊行物配布先リスト」)

分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

- ・埋蔵文化財調査センター建物の面積は 297 m<sup>2</sup>。通常の収容人数は通常 12 名。その他展示室利用などで来館者がある。
- ・施設設備については、平成 25 年度に展示室を整備した関係で、利用状況は毎年増加している。1 階展示室は 28 m<sup>2</sup>で、このうち展示遺物陳列空間は 16 m<sup>2</sup>、見学者が見学するスペースも 12 m<sup>2</sup>で狭いという施設上の問題がある。
- ・埋蔵文化財を保管しているので、機械警備と監視カメラを導入している。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ・施設上の問題があるものの、見学者は増加しているので、施設に対応した活用は行われていると判断できる。

資料番号 Z-5 施設設備利用状況\*平成 26 年度は 9 月末日現在

年度	平成 24 年度	平成 25 年度
利用者数	11	23

(出典：「センター利用カード」)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

- ・学内 LAN につながったパソコンは 9 台存在し、調査研究に活用している。
- ・学内 LAN につながったすべてのパソコンにはセキュリティ (F-Secure Client Security) が導入し、セキュリティ管理を行っている。
- ・情報セキュリティ管理としては、情報システム運用委員会を組織し、情報セキュリティ管理責任者・システム管理責任者を選出し、管理体制を構築している。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 研究者数に応じた学内 LAN に接続したパソコンを整備し、情報セキュリティ管理体制も整備しているため。

(資料番号 Z-6) 情報ネットワーク整備状況

年度	平成 24 年度	平成 25 年度
インターネット接続パソコン数	9	9

(出典：パソコン配置状況の調査)

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

- ・調査研究に必要な図書を購入し、図書・雑誌などに分類し、利用可能な状態で棚に配架している。
- ・文学部歴史学科考古学専攻の学生が卒業論文作成のために図書を利用することがある。

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由) 図書が利用可能な状況に配架されていて、教職員のみならず、学生も利用できる状況にあるため。



観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

埋蔵文化財調査センター常設展示室

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

常時開放しており、参観者がある。

#### 4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

管理運営は兼任のセンター長および専任の准教授が分担して行っている。事務は運営基盤管理部施設企画ユニットの事務担当者が担っている。

平成22年度の埋蔵文化財調査室時の組織と基本的な変化はないが、センター化したことで運営基盤が安定し、改善、向上していると判断される。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

平成23年9月以前の熊本大学埋蔵文化財調査委員会ならびに平成23年10月以降の熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会が定期的で開催され、活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していることから、質を維持していると判定される。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

発掘調査ならびに研究・教育活動の情報は、『熊本大学構内遺跡発掘調査報告』および『熊本大学埋蔵文化財調査室年報』、『熊本大学埋蔵文化財調査センター年報』、『地下の文化財』として公表されているため、質を維持していると判定される。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

パソコンが適切に配備され、発掘調査にかかわる図書が教職員ならびに学生に利用可能な状況に整備されていることから、質を維持していると判定される。